

白河市行動計画

－ アジェンダ2027 －



市長挨拶

白河市長

鈴木和夫



本市はこれまで、「第2次総合計画」や「みらい創造総合戦略」に基づき、東日本大震災からの復旧・復興に取り組みながら、地域産業の底上げや子育て支援の充実、文化・芸術の振興など、足元にある資源を活かした特色ある地域づくりを進めてまいりました。

しかしながら、「静かなる有事」といわれる人口減少や東京一極集中に歯止めがかからず、さらには、激甚化する自然災害や急速に広まるDXへの対応など、地方自治体を取り巻く環境は大きく変化しています。

また、コロナ禍により「移動する」、「対話する」、「集まる」などの行動が制限され、社会経済活動が停滞する一方、地域コミュニティや文化活動、さらにはスポーツなど、人とつながることのでられる精神的豊かさの重要性が、より一層認識されるようになってきております。

加えて、大都市が抱える潜在的リスクの懸念や、情報通信技術の発達により場所にとらわれない仕事の環境が整ってきたことで、人や企業の地方回帰の機運が生まれてきました。長い目で見れば、今後、「地方が主役となる時代」へと転換していくものと考えています。

こうした社会的潮流を的確に捉え、計画的かつ効率的に対応するため、従来の総合計画を見直し、今後5年間の市政運営の指針となる「白河市行動計画-アジェンダ2027-」を新たに策定しました。

本計画では、豊かな自然や歴史・文化が息づき、人と人とのつながりがある白河で、多くの人々が日々の暮らしの中にある「小さくても確かな幸せ」や「真の豊かさ」を実感できるまちづくりを進めていこうという思いを込め、「星がある。城がある。君がいる。白河～Well-being City Shirakawa～」を将来像に掲げています。

その実現に向け、既成概念に捉われることなく進取の精神で力強く歩みを進めてまいりますので、市民をはじめ、NPO、企業などの皆様には、引き続きご理解と、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

結びに、本計画の策定にご尽力いただいたすべての方々に心からお礼と感謝を申し上げます。

1. 基本的な事項	1	市民課	65
(1) 策定にあたって	1	(4) 保健福祉部の目標	70
1 策定の趣旨	1	社会福祉課	71
2 構成と期間	2	高齢福祉課	73
(2) 市の概況	3	健康増進課	75
1 位置・地勢	3	国保年金課	79
2 歴史・文化・自然遺産	3	こども支援課	81
3 都市環境	4	こども育成課	83
4 白河市の歴史	5	(5) 産業部の目標	86
(3) 白河市の現状	6	観光課	87
1 人口の推移	6	商工課	89
2 年齢階層別人口の推移	7	農政課	91
3 市の財政状況	8	農林整備課	93
2. 白河市のめざす将来の姿	9	(6) 建設部の目標	96
(1) まちづくりの理念	9	道路河川課	97
(2) 白河市の将来像	10	建築住宅課	99
(3) 策定過程における住民参加	11	まちづくり推進課	101
3. 土地利用構想	17	都市計画課	103
(1) 土地利用に関する基本理念	17	文化財課	105
(2) 土地利用の基本方針	17	(7) 水道部の目標	108
4. 将来フレーム	19	水道課	109
5. 各部の目標	21	下水道課	111
(1) 市長公室の目標	22	(8) 教育委員会の目標	114
企画政策課	23	教育総務課	115
地域拠点整備室	27	学校教育課	117
秘書広報課	29	健康給食推進室	119
文化振興課	33	図書館	121
生涯学習課	35	(9) 各庁舎の目標	124
公民館	37	表郷庁舎	125
スポーツ振興課	39	大信庁舎	127
(2) 総務部の目標	42	東庁舎	129
総務課	43	(10) 会計課の目標	132
財政課	45	会計課	133
工事契約検査室	47	(11) 各事務局の目標	136
行政経営課	49	議会事務局	137
税務課	51	選挙管理委員会事務局	139
(3) 市民生活部の目標	54	監査委員事務局	141
防災環境課	55	農業委員会事務局	143
地域生活課	61	6. 各部横断的に取り組む事項	146

1

基本的な事項

(1) 策定にあたって

1 策定の趣旨

平成 25 年度を初年度とした「第 2 次総合計画」では、「みんなの力で未来をひらく 歴史・文化のいきづくまち白河」を目指し、豊かな自然や、小峰城跡などに代表される歴史的・文化的遺産、さらには東北新幹線や東北自動車道など、足元にある恵まれた資源を磨き、いかながら、持続的に成長するまちを創造していくため、各種施策を実施してきました。

こうした中、国も、活力ある地域を維持していくため、地方の活性化や人口の東京一極集中の是正などを目的とした「地方創生」を打ち出し、本市も雇用の創出や子育て支援などを進めてきましたが、社会や経済に大きな影響を及ぼす人口減少に歯止めをかけることはできず、本市も令和 4 年 4 月に、表郷・大信地域が過疎の指定を受けました。

また、人口減少に加え、地球規模で議論される環境問題や食料・経済の安全保障、さらには新型コロナウイルス感染症を契機とした生活様式や意識の変化、高齢化に伴い需要が増す医療や介護、デジタル技術の急速な進展、困窮や孤立、コミュニティの維持、歴史・文化の継承などへの対応も必要です。

このことから、従来の「総合計画」のあり方を見直し、人口が減少する中においても、市民一人ひとりが、互いに支え合い、身近な幸せを実感できるまちづくりを進めるため、白河市自治基本条例第 19 条に基づき、新たな市政運営の方針として、本市の最上位計画となる「白河市行動計画 - アジェンダ 2027 -」を策定します。

2 構成と期間

平成 23 年の地方自治法の改正により、「基本構想」の策定義務が撤廃されたことから、基本構想・基本計画・実施計画の三層で構成されていた「総合計画」を見直し、「本編」と「事業編」により構成します。

1. 本編

本編は、中期的な市政運営の考え方や方針として、まちづくりの理念と白河市のめざす将来像を定めるとともに、各部の目標やその実現に向けた各課所の施策などを「市民との約束事」として示します。

さらに、市として取り組むべき重点事項を「各部横断的に取り組む事項」としてまとめています。

計画期間は令和 5 年度から令和 9 年度までの 5 年間とし、幸福度[※]に関する調査を実施することで各施策の達成状況などを把握します。

2. 事業編

事業編は、本編に定めた施策を効果的に実施するため、より詳細な事業内容等をまとめたもので、毎年度の行政運営の指針となるものです。

計画期間は、3 年間を基本とし、社会経済情勢や財政状況の変化等を考慮しながら、毎年度見直します。



※ 幸福度：一人ひとりの幸福を所得などの経済的要素に限ることなく、家族や社会との関わり合いなどの要素も含めて評価する考え方のこと。

(2) 市の概況

1 位置・地勢

本市は、那須連峰を望む福島県の南部中央に位置し、市の中心部から県庁所在地の福島市まで約 90km、東京都心までは約 185kmの距離にあります。市域は、東西約 30km、南北約 30km、総面積は 305.3km²となっており、約半分を山林が占めています。

市内には阿武隈川、杜川、隈戸川をはじめとする多くの河川が縦横に流れ、これらの源流域には、優良農地が広がり豊かな田園風景を形成しています。また、市の中心部には、阿武隈川に沿って東西に市街地が広がっています。

交通面では、都心までを約 1 時間 30 分で結ぶ東北新幹線をはじめ、東北自動車道、車で 30 分の距離にある福島空港などの高速交通体系に恵まれ、さらには JR 東北本線、幹線道路である国道 4 号や国道 289 号、白河バイパスが新たに開通した国道 294 号などにより、首都圏とのアクセスや広域的な利便性が高まっています。

▶ 白河市の位置



2 歴史・文化・自然遺産

本市には、古代より歌枕として名高い「白河関跡」をはじめ、白河藩主松平定信が「士民共楽」の地として築造した日本最古の公園といわれる「南湖公園」、南北朝期に結城親朝により築かれたのがはじまりとされる「小峰城跡」、権太倉山の麓にある巨石で、源義経が名づけたといわれる「聖ヶ岩」、北半球では唯一表郷地域だけで確認されている植物である「ビャッコイ」の自生地、鹿嶋神社の祭礼で約 350 年の伝統を持つ「白河提灯まつり」、江戸時代の「市」の形態を引き継ぐ「白河だるま市」など、豊かな自然や多くの歴史的・文化的遺産が現代へと受け継がれています。

3 都市環境

白河は、奥州の玄関口であり、古来より主要な街道が交わる交通の要衝として重要な役割を果たしてきました。

現在も、城下町としての面影が残る市街地には、市役所や市立図書館「リぶらん」、文化交流館「コミネス」に加え、国・県の行政機関が、新白河駅周辺には大型商業施設や飲食店が集積し、白河中央スマート IC 周辺には比較的大きな医療機関が立地するなど、県南地域の中核的な都市として重要な役割を担っています。

一方、郊外には豊かな自然や美しい田園風景が広がっていることから、都市的な空間とのバランスが良く、東北自動車道や東北新幹線といった高速交通体系に加え、首都圏に隣接する地理的優位性や穏やかな気候などを背景に、大手企業の工場進出等が進んでおり、快適な住環境が広がる中、産業の集積等による地域の活性化も図られています。

また、本市の骨格をなす国道 294 号白河バイパスが開通したことで、市街地における通勤や通学など、日常生活の利便性が向上することはもとより、観光客を招き入れての地域活性化や広域的で安定した物流などの実現が見込まれています。

▶ 主要な道路・交通網



4 白河市の歴史

古代

「白河」の地名は、古く奈良時代の文献において確認できます。大化改新以後、白河は陸奥国白河郡の中枢が置かれ、陸奥国と下野国の境には「白河関」が設置されました。これにより、白河は以後奥州の関門としての歴史的役割を担うことになります。

中世

鎌倉時代、白河庄は源頼朝のもとで活躍した下総国結城の武士結城朝光に与えられ、以後約400年間にわたってその一族（白河結城氏）が中世の白河を支配しました。中でも、南北朝時代に活躍した結城宗広は、奥州南朝方を代表する武将でした。

なお、白河結城氏の本拠城は搦目の白川城でしたが、南北朝期には新たに宗広の嫡男結城親朝により小峰城が築かれたとされています。

近世

豊臣秀吉による奥羽仕置により、白河結城氏は改易され、白河は会津領になります。蒲生秀行が領主の時代の17世紀初頭に小峰城や城下の整備がなされたと考えられます。

寛永4年（1627）、初代白河藩主となった丹羽長重は、小峰城の大改修や城下の整備を行い、現在につながる市街地の基礎を築いています。丹羽氏以後、榊原・本多・松平（奥平）・松平（結城）・松平（久松）・阿部と7家21代にわたる藩主の変遷がありました。

中でも松平定信は、老中首座として「寛政の改革」を行い、藩内においては「白河関跡」の場所の特定や「南湖」の築造など、大きな業績を残しています。

なお、表郷・大信・東地域の一部は、江戸時代中期以降、越後高田藩領でした。

慶応2年（1866）の阿部氏の棚倉移封により、白河は幕府領となります。慶応4年（1868）の戊辰戦争白河口の戦いでは、白河は新政府軍と奥羽越列藩同盟軍の戦いの場となって小峰城内の主要な建物は焼失し、落城しました。

近・現代

版籍奉還に伴い明治2年（1869）に白河県、同4年（1871）には二本松県、引き続き福島県に含まれます。同12年（1879）に西白河郡が置かれ、同22年（1889）に白河町制を敷きました。

昭和24年（1949）には白河町、大沼村が合併して白河市制を施行し、平成17年（2005）にはいわゆる「平成の大合併」により白河市、表郷村、大信村、東村が合併し、新しい「白河市」が誕生しました。

平成23年（2011）に発生した東日本大震災では、本市も被災し、葉ノ木平地区では大規模な土砂災害が発生しました。

（3）白河市の現状

1 人口の推移

本市の総人口は、高度経済成長期以降増加していましたが、平成12年（2000）の66,048人をピークに減少しており、令和2年（2020）には59,491人と、ピーク時からおよそ10%減少しています。

中でも表郷地域と大信地域は、令和4年4月に過疎地域の指定を受けることとなりました。

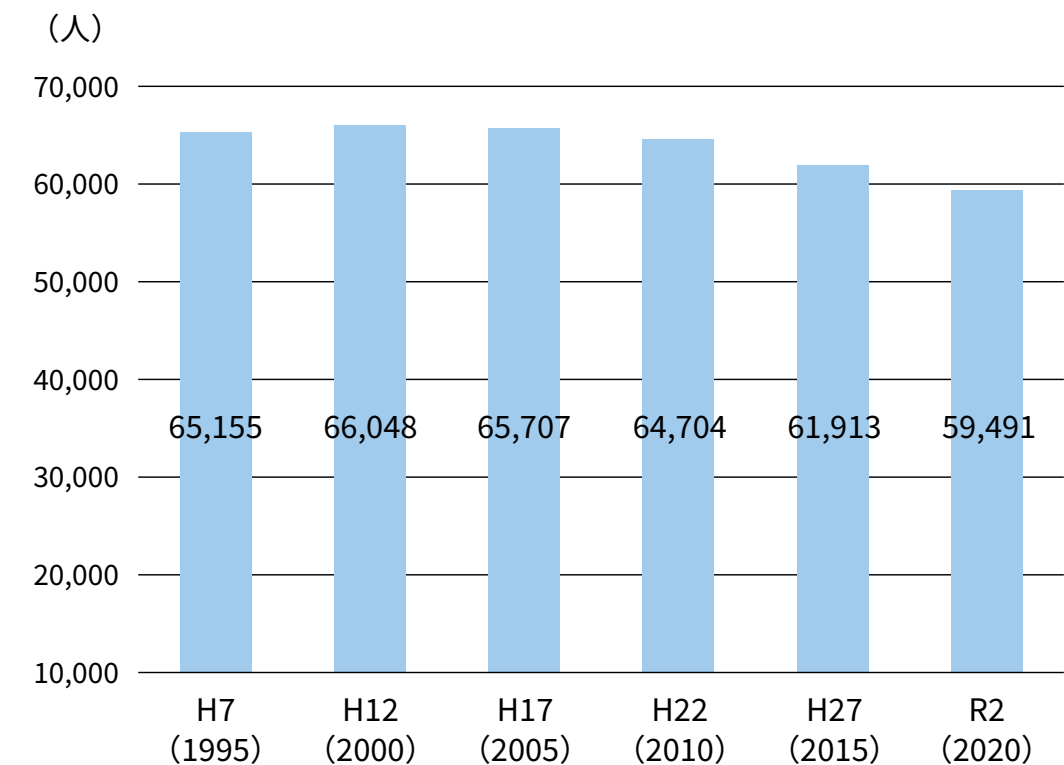
なお、令和2年（2020）とその5年前の平成27年（2015）を比較すると、3.9%減少しており、平成27年（2015）と平成22年（2010）を比較した際の4.3%の減少より改善していますが、平成27年（2015）の減少率が高い理由は、平成23年（2011）に、東日本大震災と原発事故という特殊要因があったためと考えられます。

▶人口の推移

単位：人、%

	平成7年 (1995)	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	令和2年 (2020)
総人口	65,155	66,048	65,707	64,704	61,913	59,491
増減率	-	1.4	△0.5	△1.5	△4.3	△3.9

出典：国勢調査



2 年齢階層別人口の推移

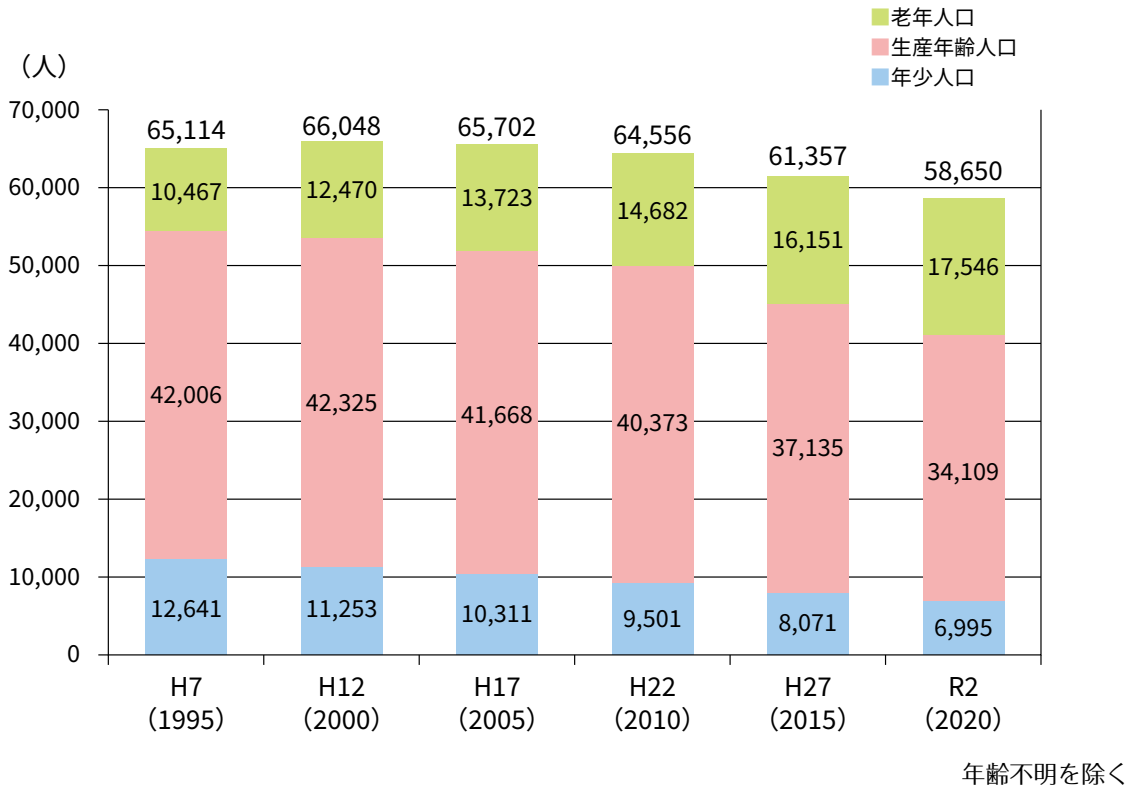
年少人口（0～14歳）は、本市の総人口がピークとなる平成12年（2000）より前から減少し始め、若年層を含む生産年齢人口（15～64歳）は、平成12年（2000）より減少に転じています。

一方、老年人口（65歳以上）は増加の一途にあり、少子高齢化が進んでいます。

▶年齢3階層別人口の推移 単位：人、%

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
総人口	65,155	66,048	65,707	64,704	61,913	59,491
年少人口 (0～14歳)	12,641 (19.4)	11,253 (17.0)	10,311 (15.7)	9,501 (14.7)	8,071 (13.0)	6,995 (11.8)
生産年齢人口 (15～64歳)	42,006 (64.5)	42,325 (64.1)	41,668 (63.4)	40,373 (62.4)	37,135 (60.0)	34,109 (57.3)
うち若年層※ (15～34歳)	15,904 (24.4)	16,163 (24.5)	15,542 (23.7)	13,786 (21.3)	12,031 (19.4)	10,696 (18.0)
老年人口 (65歳以上)	10,467 (16.1)	12,470 (18.9)	13,723 (20.9)	14,682 (22.7)	16,151 (26.1)	17,546 (29.5)
年齢不明	41	0	5	148	556	841

※雇用の構造に関する実態調査（若年者雇用実態調査）厚生労働省における「若年労働者」の定義の範囲による



3 市の財政状況

本市の令和2年度の財政規模は約455億円で、国庫支出金が増えたことなどから、平成27年度と比較して4.7%の増となっています。

また、令和2年度の財政力指数^{※1}は、0.64、実質公債費比率^{※2}は、10.4%となっており、平成22年度の16.6%に比べ、大きく改善しています。

▶財政状況 (千円)

区分	平成22年度	平成27年度	令和2年度
歳入総額A	29,575,516	43,396,057	45,450,017
一般財源	17,410,468	18,594,233	18,108,279
国庫支出金	3,939,395	5,130,528	11,645,896
都道府県支出金	1,641,385	10,303,048	3,969,748
地方債	3,256,900	4,456,000	5,030,200
うち過疎対策事業債	—	—	—
その他	3,327,368	4,912,248	6,695,894
歳出総額B	27,179,352	41,335,628	44,119,482
義務的経費	12,031,370	12,537,291	13,499,325
投資的経費	4,948,653	9,468,368	9,483,961
うち普通建設事業	4,875,691	7,944,859	6,179,015
その他	10,199,329	19,329,969	21,136,196
過疎対策事業費	—	—	—
歳入歳出差引額 C (A - B)	2,396,164	2,060,429	1,330,535
翌年度へ繰越すべき財源 D	435,511	702,008	115,969
実質収支 C - D	1,960,653	1,358,421	1,214,566
財政力指数	0.58	0.60	0.64
公債費負担比率	17.5%	16.6%	14.9%
実質公債費比率	16.6%	9.3%	10.4%
起債制限比率	9.9%	6.8%	—
経常収支比率	80.1%	86.0%	86.9%
将来負担比率	136.8	59.7%	53.0%
地方債現在高	33,265,340	35,663,674	37,547,801

※1 財政力指数：地方公共団体の財政力を示す指数のことで、財政力指数が高いほど、財源に余裕があるといえる。

※2 実質公債費比率：当該地方公共団体の借入金（地方債）の返済額及びこれに準じる額の大きさを指標化し、資金繰りの程度を表す指標のこと。「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」における早期健全化基準については、25%とし、財政再生基準については、35%としている。

基本的な事項

2

白河市のめざす将来の姿

(1) まちづくりの理念

本市は、白河関跡や南湖公園、小峰城跡に代表される歴史、地域で受け継がれてきた伝統文化、阿武隈川や杜川、隈戸川流域に広がる豊かな自然環境、東北自動車道や東北新幹線といった高速交通体系に加え、首都圏に隣接するという地理的優位性による産業の集積など、地域資源に恵まれ、大きな可能性を秘めています。

これらかけがえのない資源をいかし、市民と行政が協働し、共に元気で楽しく暮らすことのできる「将来にわたり持続可能な市民共楽のまち白河」を築き、次世代へと引き継いでいくことが必要です。

また、長い歴史の中でこのまちを育んできた先人たちの英知と努力や、東日本大震災での経験と教訓を礎とし、人口の減少を緩やかにするとともに、近年の大きな社会の変化を機敏に捉え、多くの人が住んでみたい、住み続けたいと思えるバランスの取れたまちづくりを進めていくことが重要です。

そこで、上記の内容を推進するため、白河市自治基本条例第4条に定める次の項目を、まちづくりの理念として掲げます。

1. 市民が望む地域社会の実現を目指し、市民、市議会及び市が一体となったまちづくり

まちづくりは、市民が望む地域社会を築いていくものです。それを実現させるため、市民の声に耳を傾けるとともに、市民と市議会及び市が、連携・協力し、方向性を共有しながら一体となってまちづくりを推進していきます。

2. 歴史、伝統、文化、自然等、本市の恵まれた地域資源をいかしたまちづくり

本市は、首都圏からのアクセスが良く、歴史や文化、伝統、自然環境などの地域資源にも恵まれています。この足元にある資源に光をあて、磨き、いかしながら、白河らしいまちづくりを進めていきます。

3. 子どもから高齢者まで、安全で安心して暮らすことができるまちづくり

少子高齢化が進む中、子育てや教育、医療、福祉を充実させるとともに、都市基盤を整備するなど多角的な視点で防犯や防災の強化を図り、子どもから高齢者まで、安全で安心して暮らすことができるまちづくりを目指します。

4. 地域のつながりと支え合いによる絆を育むまちづくり

東日本大震災を経験した私たちが実感した、地域の助け合いによる「共助」の力は、地域の課題を解決するにあたっても重要なものです。このことから、地域のつながりと支え合いによる「絆」を育むまちづくりを目指します。

(2) 白河市の将来像

まちづくりの理念を踏まえ、白河市の将来像を次のとおり定めます。

星がある。城がある。君がいる。白河

～ Well-being City Shirakawa ～

豊かな自然や歴史・文化が息づき、人と人とのつながりがある白河で、多くの人が日々の生活の中にある「小さくても確かな幸せ」や「真の豊かさ」を実感できる。そんな白河を目指します。

01



市民が望む地域社会の
実現を目指し、市民、市議会
及び市が一体となった
まちづくり

02



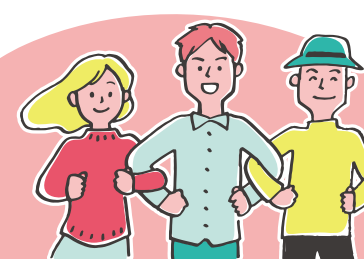
歴史、伝統、文化、自然等、
本市の恵まれた
地域資源をいかした
まちづくり

03



子どもから高齢者まで、
安全で安心して
暮らすことができる
まちづくり

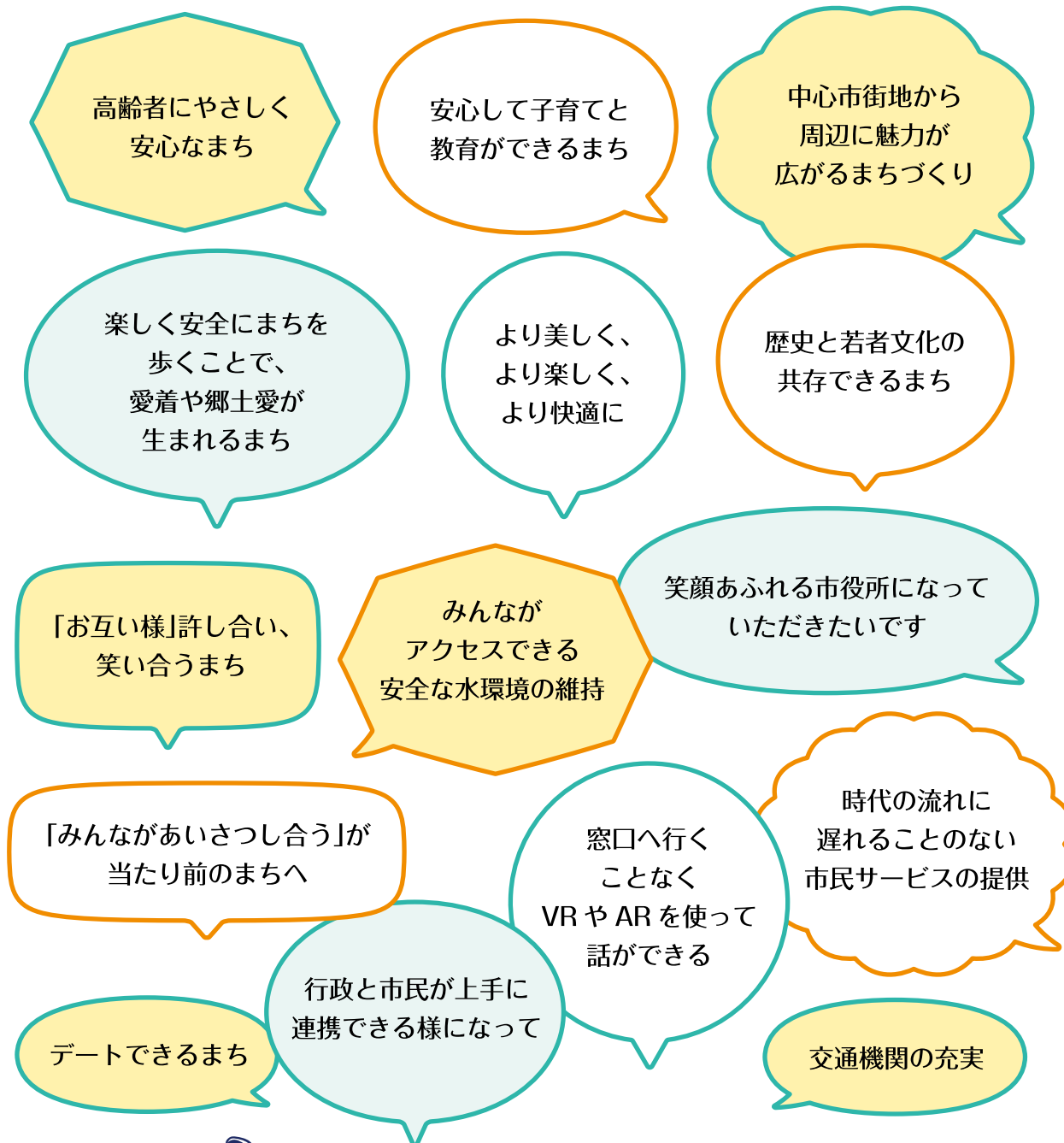
04



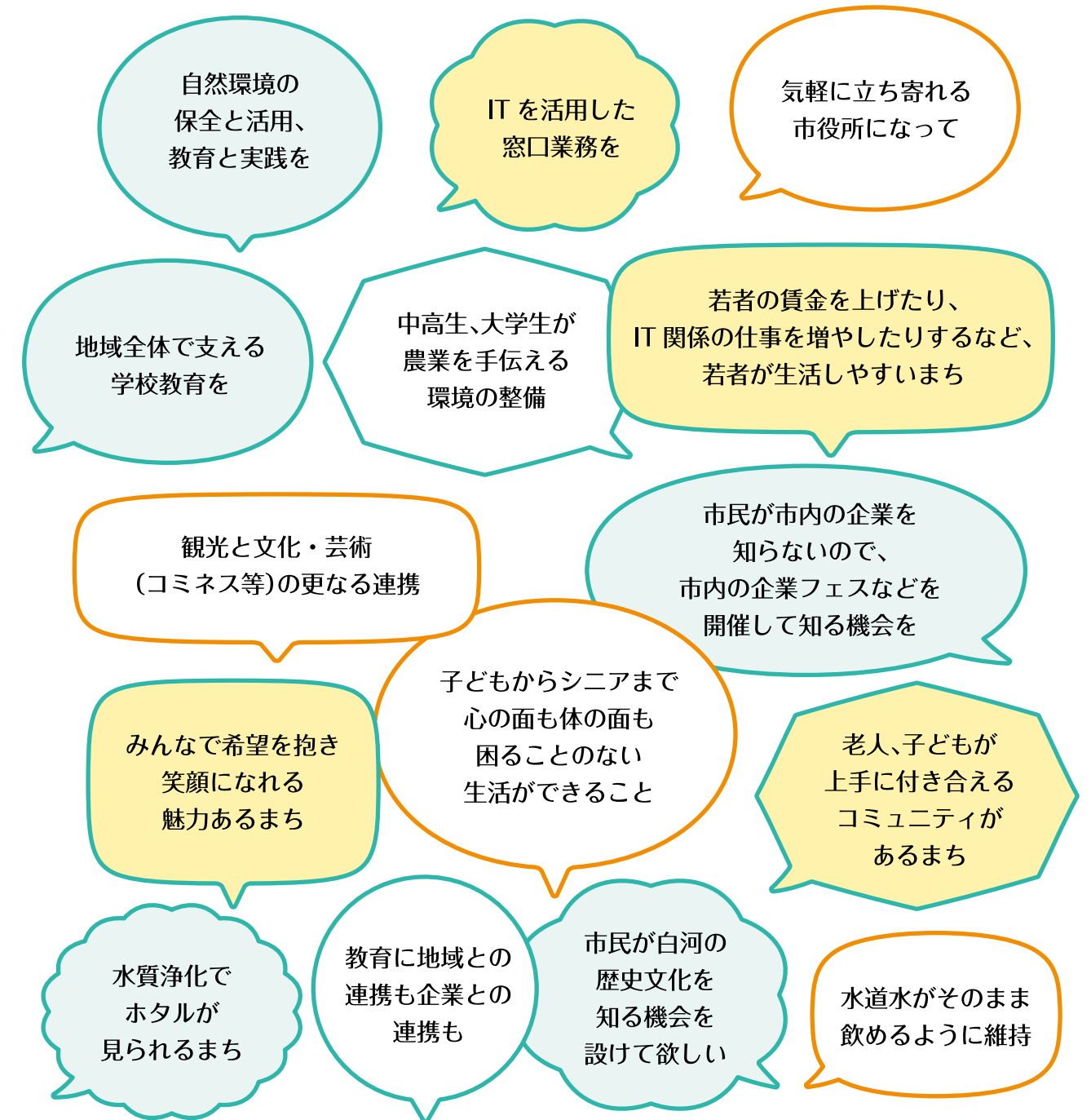
地域のつながりと
支え合いによる絆を育む
まちづくり

市民ワークショップで

市民ワークショップを開催した際には、こんな意見がありました。



出た5年後に望む姿



移住者インタビュー



本市に移住してきた方に白河市の良いところ、悪いところ、いかすべき特徴などについてお話を伺ってきました。



Yさん
(40代)

白河は住民の人柄がまじめで、暮らすのにもちょうど良いまちだと感じています。

今後の白河を考えると、城下町なので、小峰城と白河駅周辺からの盛り上がりが大事だと思います。まちなかに核となるような施設やお店などの場所が何力所かあれば、そこを中心に活気がでてくるのではないのでしょうか。

あわせて、市外の人たちが「行きたいな」と思える、そして、行ってきたことを周囲に宣伝してもらえるようなコンテンツを増やしていくことが大切だと思っています。

大きな都市に比べて、白河は若い人が何か新しいことにチャレンジできる環境にあると感じているので、一人でも二人でも、やりたいことを行動に移す人が増えてくるといいと思っています。

白河市では、普段の買い物に困ることなく生活できています。仕事については、地元の人が協力的だったので、すぐに農業を始めることができました。農業は、研修や勉強は大変ですが、本人のやる気次第で頑張れば頑張っただけ稼げるところに魅力を感じています。

ただ、白河には大学がなく若者が少ないので、大学生などをもっと呼び込むことが必要ではないのでしょうか。若者が増えれば、まちが活性化するし、農業を学んでいる学生を呼び込むことができれば、農家の後継者不足など地域課題の解決にもつながるのではないかと思います。



Aさん
(30代)



Rさん
(50代)

移住してきて、白河市は子育てがすごくしやすい環境だと感じました。特に預かり保育が使いやすく、また、都市部に比べて料金も安かったので子育て中は本当に助かりました。

子どもが大きくなってきて感じたのは、教育についてで、もっと思い切った方針を打ち出してもいいのかなと思っています。例えば「個性を大切にする教育」など、白河だから受けられる教育みたいなのがあったら面白いと思います。

白河は地元の人と移住者が打ち解けやすいまちだと思っています。しかし、移住者の中には、自分の居場所を見つけにくい人もいるので、そういう人がいるということを地元の人が知り、声をかけていくなどの行動も必要だと思います。

なにかあっても、思いやりをもってお互い様と言えるまちになることを期待しています。

白河は小峰城やだるま市など見所であふれていて、住んでいて飽きない賑やかなまちだと思います。自然が豊かで公共施設やお店も充実しており、その比率が丁度よいまちだと思っています。

気になるところは、危険な交差点がいくつかあるところです。そういったところは、信号の設置や道路の改良をしてほしいです。また、バスなどの公共交通の本数が増えれば、将来的にもっと安心できると思います。

この行動計画に載っている少子化対策が実施されれば、子育ても前向きに考えられると思っています。それを強みにしたら人口増加にも繋がっていくのではないかと思います。

ダルライザーやダイスも白河の強みなので、SNSで更に押し出してもっとバズって欲しいです。



Sさん
(20代)



コミュニティ・カフェ EMANONに通う 高校生たちに 聞いてみた



本市の若者は高校卒業後、進学や就職のために白河を離れることが多く、人口減少の要因の一つとなっています。

コミュニティ・カフェ EMANON は、若者が地域と関わることで、地元を離れても白河との関係性を持てるように、若年層が集まる場所としてオープンしました。

今では、「高校生びいきの古民家カフェ」、「日常のひとときを過ごす場所」、「地域内外の人とつながる交流拠点」、「地域情報が集まる地域の関係案内所」として活用されています。

そんな EMANON に通う高校生が参加するワークショップを開催し、高校生と「若者の住みたいまち、住みつづけたいまち」をテーマに意見交換を行い、どんなまちに住みたいか、そのために自分たちが何をしたいかを考えました。

参加した高校生の意見（Aさん）



【住みたいまち、住みつづけたいまち】

- 魅力と笑顔があふれる、世代を問わずにみんなでつくる白河市

【そう思った理由】

- 白河の魅力を知ってもらうだけでなく、魅力がみんなの心に残るまちにしたい。
- あいさつしてもらえると気分が上がり、自然と笑顔になれる。また、あいさつがないと安心できるまちにならない。
- 高校生だけでなく、大人や子どもとも一緒に活動したい。

【自分たちがしたいこと】

- 白河を巡るサイクリングコースの設定や、休憩時に白河の果物を食べてもらう、フルーツマラソンの開催などをやってみたい。
- 中心市街地でのシャッターアートの作成を考えている。このアートをずっと残せれば、たとえ白河から離れても、思い出として残ってくれるはずだと思う。
- 道を歩いていてすれ違った人が互いにあいさつし合えるように、あいさつ運動を広めていきたい。

参加した高校生の意見（Bさん）



【住みたいまち、住みつづけたいまち】

- 性的マイノリティ「だから何？」と思えるまち

【そう思った理由】

- セクシャルマイノリティに対して、差別や過剰な気遣いを感じる。カテゴライズや特別視をせずに、個人を見て欲しい。

【自分たちがしたいこと】

- セクシャルマイノリティについて、小中学生が知らないことに驚いたので、まずは小中学生に知ってもらうためのシンポジウムを開催する。
- 大人に向けては、白河でレインボーマーチを開催することで広めたい。
- 少しでも多くの人に知ってもらえるよう Twitter のアカウントを作っている。

参加した高校生の意見（Cさん）



【住みたいまち、住みつづけたいまち】

- 0 歳から 100 歳までみんなで話せる白河市

【そう思った理由】

- 市民同士の心の距離が遠いと感じる。互いに顔の見える関係性を作りたい。

【自分たちがしたいこと】

- 知らない人同士でもあいさつする「あいさつ運動」のような活動があってもいい。自分も進んであいさつするし、市内の学校で取り組むのであれば、その周知はできる。
- 色々な年代の人が話せるように、みんなで散歩や、年齢が関係ない運動会の開催なんかもやってみたい。

参加した高校生の意見（Dさん）



【住みたいまち、住みつづけたいまち】

- 文化や芸術を肌に感じるまち

【そう思った理由】

- アートだるまがめちゃくちゃかっこいいけど、あまり知られていない。もっと市民が日常で身近に文化芸術と触れることのできるまちにしたい。

【自分たちがしたいこと】

- EMANON でのだるま（できればアートだるま）のワークショップを開催する。
- 美術館などの施設を訪れなくても、身近にアートを感じることができるよう、まちなかや店頭 にアートだるまを設置してみたい。
- 芸術祭の宣伝をしたい。学校へのポスターの配布や掲示ならできる。
- だるま市には、たくさんの人が来るのだから、そこで福島ビエンナーレの告知（アートだるまのブース設置など）をやってみたい。
- 市民みんなで発信できるような仕掛けづくりを考えたい。

18

4

将来フレーム

将来人口推計

日本の人口は、平成 20 年（2008）をピークに減少局面に突入し、今後、人口減少のスピードは加速度的に高まっていくとされています。

平成 26 年（2014）12 月 27 日に閣議決定された「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」（令和元年改訂版）では、人口減少を「静かなる危機」と表現し、日々の生活においては実感しづらいものの、このまま人口減少が続けば、将来的に経済規模の縮小や生活水準の低下を招き、究極的には国としての持続性すら危うくなる問題として警鐘をならしています。

本市においても同様の傾向がみられ、本市の人口は、国立社会保障・人口問題研究所の推計に準拠して算出した場合、令和 22 年（2040）には 47,582 人になると見込まれます。

年齢 3 区分別に見ると、年少人口と生産年齢人口は減少し続け、老年人口も令和 12 年（2030）をピークに、減少していくと見込まれます。

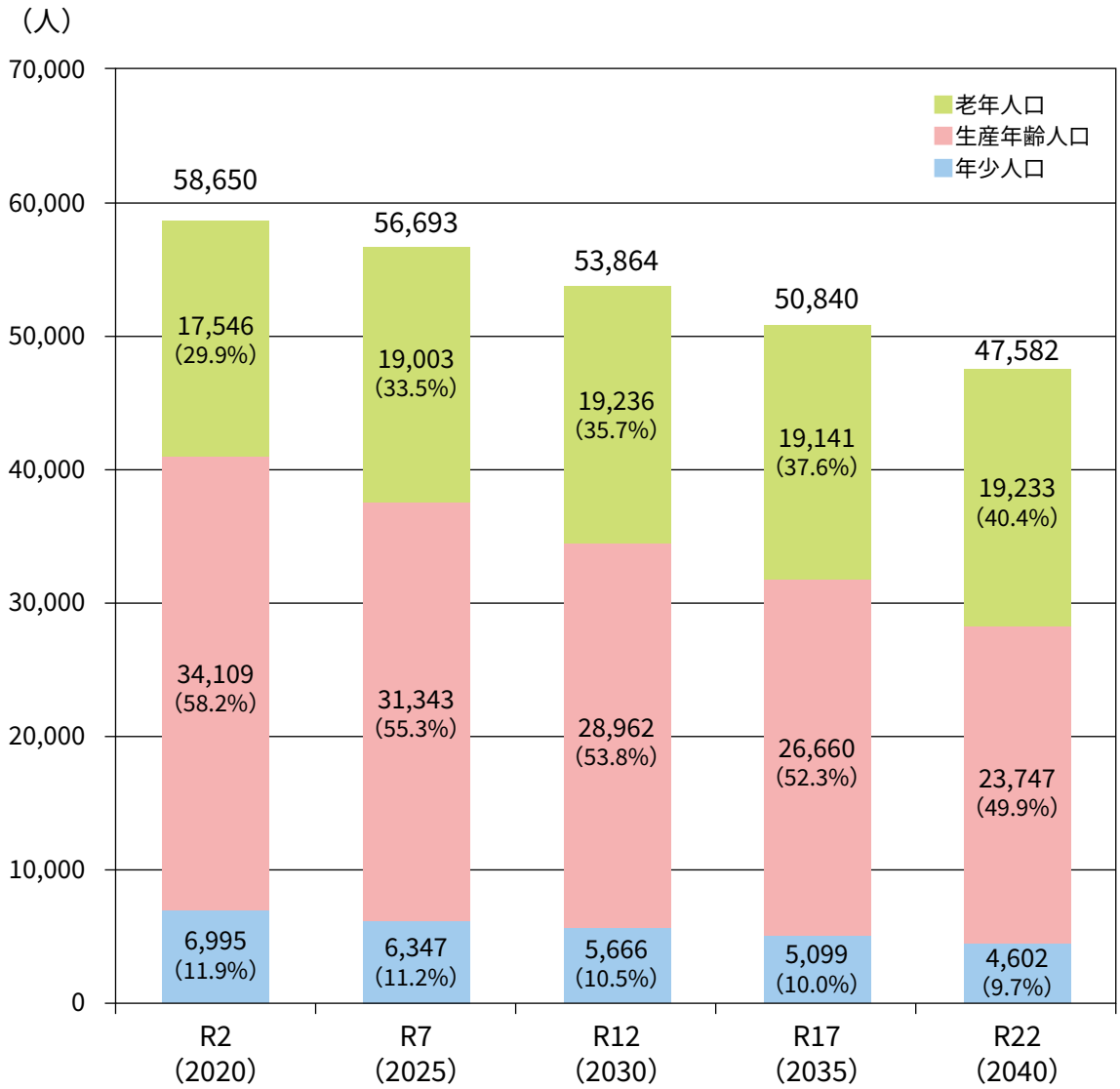
総人口に占める老年人口の割合は今後も増加し、令和 22 年（2040）には市民の約 2.5 人に 1 人が 65 歳以上の高齢者となることが予想されます。

人口減少に歯止めをかけることは難しい状況ですが、持続可能な地域社会を維持していくため、若い世代の雇用創出や子育て支援などに取り組み、そのスピードを緩やかにしていくことが重要になります。

▶ 将来人口

	令和 2 年 (2020)	令和 7 年 (2025)	令和 12 年 (2030)	令和 17 年 (2035)	令和 22 年 (2040)
総人口	59,491	56,693	53,864	50,840	47,582
年少人口 (0 ～ 14 歳)	6,995 (11.8)	6,347 (11.2)	5,666 (10.5)	5,099 (10.0)	4,602 (9.7)
生産年齢人口 (15 ～ 64 歳)	34,109 (57.3)	31,343 (55.3)	28,962 (53.8)	26,600 (52.3)	23,747 (49.9)
老年人口 (65 歳以上)	17,546 (29.5)	19,003 (33.5)	19,236 (35.7)	19,141 (37.6)	19,233 (40.4)
年齢不明	841	-	-	-	-

令和 2 年 / 総務省統計局「国勢調査」
令和 7 年～令和 22 年 / 国立社会保障・人口問題研究所の推計に準拠した将来予測結果（令和 2 年 3 月時点）



令和 2 年 / 総務省統計局「国勢調査」
令和 2 年は、年齢不明を除く



5

各部の目標

市長公室

感動と笑顔があふれる心豊かなまちにします

総務部

市民の信頼に応える行政を推進します

市民生活部

安全で安心な住みよい地域社会にします

保健福祉部

地域でいきる みんなでつなぎ支え合う
福祉のまちにします

産業部

地域の特性と資源をいかした
活力あるまちにします

建設部

安全で安心できる
「歴史と文化が息づくまち」にします

水道部

健全な水循環・水環境を未来につなぎます

教育委員会

「未来を切り拓く人間力」を育みます

表郷庁舎

住民・地域団体・行政が手を取り合い、
共に歩む表郷を目指します

大信庁舎

暮らしも、遊びも、まるっと楽しい大信を目指します

東庁舎

地域資源をいかした、
東地域内外の「交流」が盛んなまちにします

(1)

市長公室の目標

感動と笑顔があふれる 心豊かなまちにします

市民の Well-being を高めるため、バランスのとれた総合的な政策を企画・立案するとともに、人口減少対策や健康寿命の延伸など、市全体で取り組まなければならない施策について、関係部局と連携しながら推進していきます。

また、市民のニーズの把握と的確な情報発信につとめるとともに、複合施設の整備や文化芸術の振興、さらには生涯学習機会やスポーツ環境の充実などの重要プロジェクトに取り組み、人と人が緩やかにつながり、感動を共有できる笑顔あふれるまちを目指していきます。

【実現に向けて】

企画政策課

- 市民と行政がまちづくりの方向性を共有することができるようにしていきます。
- 白河に「住みたい」「住み続けたい」と思う人を増やしていきます。

地域拠点整備室

- 豊かに住み続けられる「まちの拠点」として、人と人がつながり、訪れるみんなが笑顔になるような複合施設を目指します。

秘書広報課

- 市民の市政への参画と協働の基盤となる広報広聴を目指します。
- 友好都市間で歴史や文化を学び合い、市の魅力向上につなげます。

文化振興課

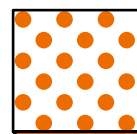
- 市民が文化芸術を通して地域社会とのつながりが持てるようにします。

生涯学習課

- いつでも心豊かに学び、充実した人生を送ることができるようにします。
- 生涯を通して様々な学習ができるまちを目指します。(公民館)

スポーツ振興課

- いつでもスポーツに親しみ、生きる喜びを実感できるようにします。



企画政策課

めざすまちの姿①

市民と行政がまちづくりの方向性を共有することができるようにしていきます。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

人口減少や少子高齢化が進む中、将来にわたり持続可能な地域社会を維持していくためには、市民と行政が一体となって地域が抱える課題の解決に取り組んでいく必要があります。

このことから、地域課題や市が目指すべき将来像を示し、市民や企業、そして各種団体とまちづくりの方向性を共有していくことが重要だと考えています。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 地域を取り巻く環境が目まぐるしく変化していることから、市政運営の指針や市の国土利用計画など市全体に関わる総合的な計画等において、地域の将来を見据えたまちづくりの方向性を示していく必要があります。
- 地域の将来を見据えたまちづくりの方向性を示すにあたっては、市の現状や課題を明らかにするとともに、市民のニーズを的確に捉えていく必要があります。
- 市民や企業、各種団体とまちづくりの方向性を共有するため、各種計画等について広く周知していく必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

総合的な企画及び調整の実施

- 地域の将来を見据えたまちづくりの方向性などを市民と共有するため、中期的な市政運営の指針や白河市過疎地域持続的発展計画、白河市国土利用計画などを適切に管理運営するとともに、広く市民に周知していきます。
- 市政運営の指針に基づく各施策の達成状況などを把握するため、「幸福度」など市民が身近に感じることができる指標を導入していきます。
- 各種計画の作成や進捗状況を確認する過程において、市民や各種団体と意見交換を行うなど、市政運営に市民ニーズを反映させていきます。

- 地域の均衡ある発展と効率的な行政運営を進めるため、課題の解決に資する国の制度を積極的に活用する一方、業務を進めるうえで支障となる法的規制等について制度改正の提案や要望などを行っていきます。
- 個性をいかした地域づくりを進めていくため、地方分権や県からの権限移譲などに積極的に取り組んでいきます。



市民ワークショップ

関連する 計画

- 白河市行動計画－アジェンダ 2027－
- 白河市人口ビジョン
- 白河市教育大綱
- 白河市国土利用計画
- 公共施設個別施設計画
- 白河市みらい創造総合戦略
- 新市まちづくりプラン
- 白河市過疎地域持続的発展計画
- 公共施設等総合管理計画



企画政策課

めざすまちの姿②

白河に「住みたい」「住み続けたい」と
思う人を増やしていきます。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

全国的に人口減少や少子高齢化が進んでおり、特に、本市をはじめ高等教育機関等がない地方では、若者が進学や就職を機に都市部へ転出したまま戻ってこない傾向にあるため、人口減少が加速度的に進んでいます。

このことから、豊かな自然や歴史、文化に囲まれながら心豊かな生活を送ることができる本市の暮らしやすさや魅力を発信し、多くの人に実感してもらうことで、白河に「住みたい」「住み続けたい」と思う人を増やしていきたいと考えています。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 本市は、首都圏へのアクセスが良く、都市的な生活も豊かな自然に囲まれた生活も可能なことから、その魅力を発信するとともに多文化共生の推進など、多くの人が暮らしやすと感じることができる環境を整えていく必要があります。
- 本市で暮らす人たちが、住み続けたいと思えるよう、また、進学等を機に本市を離れた人が、将来は戻りたい、離れていても関わり続けたいと思えるよう、地域に対する愛着や誇りを醸成していく必要があります。
- 人口減少が進む中、一つの自治体でフルセットの住民サービス^{*}を提供していくことが困難になってきていることから、自治体間や官民との連携、外部人材の活用などを進めていく必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

移住定住の推進

- 「白河市移住・定住ポータルサイト」などを活用し、本市の魅力や暮らしやすさ、移住に必要な情報を発信するとともに移住検討者に寄り添った相談体制やニーズに応じた支援制度を整えていきます。
- 本格的な移住を前に、本市の魅力である都市的な生活と豊かな自然に囲まれた生活との両方を体験できる環境を整えていきます。
- 移住者や市民が気軽に集い、新たなコミュニティを形成することができる環境を整えていきます。

- 移住や定住の受け皿の一つとなる行政分譲地の販売を促進していきます。

地域に対する愛着や誇りの醸成と知名度の向上

- 本市に関わる全ての人々の地域への誇りや愛着を醸成することにより、地域と人とのつながりを深め、まちの魅力を高めていきます。
- 本市の知名度を高めるとともに、本市に関心がある方を増やしていき、実際の訪問や地域貢献につなげ、地域の活性化を図っていきます。

多様な交流と連携による持続可能なまちづくり

- しらかわ地域定住自立圏構想において新たな連携事業を模索するとともに、生活圏や経済圏が同じ栃木県北部地域とも連携を進めていきます。
- 民間や外部人材の知見やノウハウをいかすため、包括連携協定や地域おこし協力隊、地域活性化起業人などの制度を活用していきます。
- 市民と外国人との交流機会を設けるとともに、外国人が地域コミュニティに参加しやすい環境づくりを進めていきます。
- 中学生海外派遣事業など他国の文化に触れ合う機会を設け、国際社会に通じる人材を育成していきます。
- 姉妹都市及び観光で交流のある台湾との交流促進に加え、新たな都市（英語圏の都市）との交流を模索していきます。
- 本市に縁のある首都圏在住の人たちで組織されている「東京ふるさと会」などの活動を支援していきます。

関連する計画

- 白河市シティプロモーション基本方針
- しらかわ地域定住自立圏第3期共生ビジョン

用語解説

※ フルセットの住民サービス：市町村が、教育、福祉、文化など公共サービス提供のための施設等をすべて自らが整備し運営していこうとする考え方のこと。



地域拠点整備室

めざすまちの姿

豊かに住み続けられる「まちの拠点」として、
人と人がつながり、訪れるみんなが
笑顔になるような複合施設を目指します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

地方を取り巻く情勢は、人口減少・少子高齢化や、それに伴う活力衰退などに歯止めがからず、なお一層深刻化しています。これらの諸課題に対応し、魅力ある住みやすいまちづくりの実現のためには、まちづくりの主役である市民一人ひとりが「健康」で、様々な活動を展開し、まちの活力を高めていくことが求められています。また、日々の充実した暮らしに欠かせない安定した仕事を持つことや、安心して子どもを産み育てられること、生きがいを持ちながら心身ともに健康に過ごせることなどが大事であり、行政が、円滑な市民生活を後押しする必要があります。

加えて、新型コロナウイルス感染症の拡大により、従来の生産性・効率性優先の考えから、健康（増進）、余暇、仕事と家庭の両立を重視する気運が一層高まっています。今後、いわゆる新しい生活様式が浸透し、オンラインでのコミュニケーションが一定程度定着しても、人と人との直接的なコミュニケーションの大切さは変わることなく、むしろ制約を受ける分、その重要性が増しています。

このため、「健康増進」・「子育て支援」・「生きがいづくり」の機能を柱とした居心地が良い空間を整備し、「人と人がつながり」、「誰もが気軽に立ち寄れる」、「多くの市民が集い、笑顔になる」など、多くの市民が「憩い、楽しむ場」となるよう複合施設の整備を進めます。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 少子高齢化が進行し、介護、医療など医療保険制度の維持が懸念される中、心身ともに健康で自立して活動し生活できる期間、いわゆる健康寿命を延ばしていく必要があります。
- 女性の社会進出や経済面などの理由から、小さな子どものいる世帯でも共働きの割合が高まっていることなどから、仕事と生活の両立や安心して子どもを産み育てることができる環境づくりが求められています。
- 豊かな生きがいのある人生を送るためには、生涯にわたって学習に親しむことが重要であり、住み慣れた地域で文化活動やボランティア活動などを通して、仲間との親睦や多世代

との交流を図る必要があります。また、市民が社会を構成する一員として、長年培ってきた経験・知識・能力をいかした社会活動や生産活動に貢献することが、活力ある地域の実現や生きがいづくりに有効であり、そうした機会を拡大していくことが重要です。

- 価値観の変化に伴い、市民ニーズの多様化が進んでいることから、市民から求められる行政サービスの分野の拡大も考えられますが、本市の人口動態や財政状況などを踏まえると、行政サービスの拡大には限界があるため、民間事業者と連携して取り組みながら対応していく必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

豊かに住み続けられる「まちの拠点」の整備

- 市民会館跡地に、「健康増進」・「子育て支援」・「生きがいづくり」・「民間」・「交流」の5つの機能を取り入れた、多くの市民が憩い楽しめる場となる複合施設の整備を進めていきます。
- 行政機能との連携により、相乗効果が期待できる民間機能・サービスの導入を模索していきます。
- 子育て等によるブランクにより就職に不安がある女性の悩みを解消し、社会に踏み出す一歩を後押しできる環境を整えていきます。
- 複合施設を活動の拠点とした地域課題の解決や地域資源を活用した事業に取り組める人材づくりを進めていきます。



複合施設外観イメージ

関連する計画

- 市民会館跡地利活用基本方針
- 複合施設整備基本計画



秘書広報課

めざすまちの姿①

市民の市政への参画と協働の基盤となる 広報広聴を目指します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

現代社会では、地域の独自性や主体性が問われ、市政の課題解決に市民の参画と協働が必要とされています。そのため、市と市民が情報を共有し、信頼関係を継続することが大切です。市は、正しい情報を分かりやすく伝え、市民は、市の情報を認知することで、市政への関心や参画意欲を高めることができます。これにより、双方向コミュニケーションの充実を図り、行動変容につなげる流れをつくる必要があります。

また、多くの自治体が独自性を打ち出し、魅力を発信する動きが活発になる中、これまで以上に市外の人から選ばれる白河となるために、ブランドイメージを向上させることも重要です。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 市民と情報を共有し、信頼関係を継続することが重要であるため、ターゲットを明確にしたうえで、市民が知りたい情報を効果的に伝えるなど、市の情報を分かりやすくかつ正確に発信するとともに、市政懇談会や市長への手紙などの広聴活動を行う必要があります。
- 広報紙だけでなくホームページや SNS など媒体が多様化する中、市外の人にも意識した広報が必要です。

◆ 課題を解決するための取組み

情報ニーズの把握

- 秘書広報課に情報を集約する庁内の体制をつくります。
- 様々な行政ニーズを把握するため、住民・企業・団体・報道機関などステークスホルダー※との結びつきを強めていきます。
- 情報発信のターゲットを明確に定め、市民が知りたいと思う情報を分かりやすく効果的に発信します。

- ホームページの閲覧数やアンケート調査、市政懇談会、市長への手紙などから、広報が市の施策実現にどう貢献したか、発信した情報を市民がどう認知し、どのような行動変容が起こったかを検証します。

市外も意識した情報の発信

- 市外に向けて市の魅力を積極的にアピールします。
- 地域ブランド化を意識した情報を発信します。

広報媒体の多様化

- より多くの人に情報を届けるため、広報紙やホームページ、SNS にとどまらず、データ放送など多様な媒体を組み合わせるなど、ターゲットに合わせた発信をします。

功労者の表彰

- 市政の進展に寄与し、特に功労等があった個人や団体、住民の模範となる善行者について、公平・公正な選出で表彰し、市政への参画や協働に対する住民の動機付けを促します。



広報しらかわ

関連する計画

- 白河市シティプロモーション基本方針

用語解説

※ ステークホルダー：企業や行政などの利害と行動に、直接あるいは間接的な利害関係がある個人や団体などのこと。



秘書広報課

めざすまちの姿②

友好都市間で歴史や文化を学び合い、
市の魅力向上につなげます。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

歴史的な縁で友好都市を締結した市との交流を発展させ、相互の魅力を再発見するとともに、良い点を倣いあうことで、各市の魅力度向上や交流人口の増加につなげます。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 定期的に首長はじめ職員が各市を訪問し、交流を深める必要があります。
- 行政だけでなく、市民ぐるみの都市間交流を行う必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

相互訪問

- 定期的に互いの市を訪問し、歴史や文化に触れることで交流をより深いものにします。

市民間交流

- 市民訪問団が互いの市を訪問し、歴史や文化に触れるとともに、共同で作業をしたり、宿泊したりすることで交流を深め、交流人口の増加を目指します。



戸田市市民交流



友好都市 20 周年



文化振興課

めざすまちの姿

市民が文化芸術を通して
地域社会とのつながりが持てるようにします。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

生活様式の都市化や多様化に伴い、町内会をはじめとする社会組織の変容や、市民同士の結びつきが弱まっている傾向があります。コロナ禍は、こうした社会の変化をより一層顕著にし、デジタル技術の進展は利便性が向上する一方で、直接的な人間関係を築きにくくしています。

文化芸術は、多くの人と価値観や感動を共有することができ、鑑賞することや活動することで、緩やかに地域社会と関わり、人々を包摂する力があります。このため、市が様々な文化芸術に関する施策を継続していくことで、市民が文化芸術と関わることで、いきがいを見出し、人と人とのつながりを持ち、地域社会の一員として、支え合う社会になると考えています。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 誰もが文化芸術にアクセスできるように、多様性を尊重し様々な場面でのバリアフリーに務め、鑑賞の機会や活動の場面を工夫していく必要があります。
- コロナ禍により、文化芸術に携わる市民や団体の活動が停滞傾向にあるため、引き続き、文化交流館コミネスを中心とした良質な舞台芸術の鑑賞機会を提供するとともに、文化団体の活動支援や子どもへの支援、担い手の育成が必要です。
- 地域の歴史や自然、伝統などをいかした「メイド・イン・白河の文化」を育て、市民が地域に誇りと愛着を感じられるようにするとともに、自らの文化を基盤に、姉妹都市や友好都市をはじめ、県内外、国内外と文化的な交流をしていくことが重要です。

◆ 課題を解決するための取組み

文化芸術による社会的包摂の推進

- 鑑賞の機会や活動の場面において、多種多様な作品やプログラムをバランスよく企画し、市民が文化芸術と関わり参加できる事業を展開していきます。

- 施設設備はもとより、上演内容においてもバリアフリーに取り組むとともに、障がい者や妊婦、外国人など誰もが文化活動に参加できる環境の整備を検討していきます。
- 文化交流館コミネスなどの文化施設が、市民のサードプレイス^{※1}となり得るよう、関係団体を育成するとともにワークショップなどの学びの機会を拡充していきます。

担い手の育成

- 子どものたちの鑑賞や学びの機会を充実させ、感性や情操を育むとともに、アウトリーチ^{※2}型の事業により中学校・高校の文化部の活動を支援します。
- 芸術家が一定期間市内に滞在して行う制作活動や芸術家と交流しながら行う共同事業を企画し、市民や文化団体が芸術家との関わりを持つ機会をつくり、活動の活性化や担い手の育成につなげていきます。

メイド・イン・白河の文化の育成・発信

- 狛犬やだるまのように、地域に残されている歴史や伝統、自然を基盤とする文化に光をあて、磨きをかけることで新たな付加価値を見出し、観光などと結び付け、白河の文化として内外に発信していきます。
- 音楽や演劇、文芸など市内で展開されている文化活動において、姉妹都市や友好都市をはじめとする市内外、国内外と交流を深め、関係人口^{※3}の拡大を図ってまいります。



南湖写生大会

関連する計画

- 白河市文化芸術推進基本計画
- 公共施設等総合管理計画
- 公共施設個別施設計画

用語解説

※1 サードプレイス：家庭（第1の場）でも職場（第2の場）でもない第3の居心地の良い場所のこと。

※2 アウトリーチ型：ホール外で実施するワークショップ、等の体験型事業やミニコンサート等のこと。

※3 関係人口：移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々のこと。



生涯学習課

めざすまちの姿

いつでも心豊かに学び、
充実した人生を送ることができるようにします。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

「人生 100 年時代」に向けて社会が大きな転換点を迎えるなかにあって、生涯学習の重要性は一層高まっています。

市民一人ひとりが生涯を通して学ぶことのできる環境の整備、多様な学習機会の提供、学習した成果が適切に評価され、様々な分野で活動できるようにするための仕組みづくりなど、生涯学習社会の実現のための取組みを進めていきます。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 「人生 100 年時代」に向けて、ライフステージに合わせた学びの必要性が高まるとともに、高齢者の健康に関する生涯学習に関心が高まっており、ライフステージに応じた学びの機会を提供する必要があります。
- 市民の生きがいづくりや生涯学習へのニーズの高まりに応じていく必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

ライフステージに応じた学びの機会の提供

- (子ども・青少年の学び) 音楽・美術・書道・演劇等の芸術文化やスポーツなどに親しむ機会の創出をはじめ、多様な体験や学習ができる機会を提供していきます。
- (成人の学び) 現代的・社会的課題について考え、課題解決につながる学習機会を提供していきます。
- (高齢者の学び) 高齢者が年齢にとらわれることなく、自由かつ主体的に活動し、自立した生活を送ることができるよう、心身の健康づくり、生きがいづくり、社会参加につながる学習機会を提供していきます。

生涯学習拠点の充実

- 複合施設をはじめとした生涯学習拠点の充実を図り、幅広い世代の市民活動が、より活性化するための魅力的な空間となるよう関係各所とともに取り組んでいきます。
- 社会教育をはじめ、文化やスポーツ、レクリエーションやボランティアといった活動など、新しいことにチャレンジできるよう努めていきます。



白河市二十歳の集い

関連する
計画

- 第3次白河市生涯学習推進計画



公民館

めざすまちの姿

生涯を通して様々な学習ができるまちを目指します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

少子高齢化の進展や価値観の多様化など、社会が急激に変化する中、公民館で活動する市民の固定化や、高齢化が進んでいます。

公民館は、社会の変化、価値観の多様化に対応するため、市民のニーズを的確に把握し、様々な年代を対象に魅力ある講座・教室を主催します。また、市民が様々な活動を通じ、健康づくりや生きがいづくりができる場として、快適に利用できる環境を提供したいと考えています。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- すべての市民が快適に利用できる環境を整備する必要があります。
- インターネットやスマホ等から様々な情報を容易に得られる社会となっていることから、多様化した価値観に対応した主催事業を企画・開催していく必要があります。
- 社会情勢が変化中、市民が生きがいをもって生きていくため、自らの学びの成果を地域に還元していけることが重要です。

◆ 課題を解決するための取組み

生涯学習機会の提供

- 市民が求める主催講座・教室を開催するとともに、社会情勢の変化を捉えた講座を提案していきます。
- 自分の人生を切り拓き、対話や協働を通じて社会や地域をけん引することができる人材を育成する、ボランティア講座を開催していきます。

学習環境の整備

- 子どもから高齢者、障がいを持つ人など、すべての市民が快適に利用することができる施設となるよう、環境を整えていきます。



レディースセミナー



習作展 絵手紙愛好会

関連する計画

- 白河市複合施設整備基本計画
- 公共施設等総合管理計画
- 公共施設個別施設計画



スポーツ振興課

めざすまちの姿

いつでもスポーツに親しみ、
生きる喜びを実感できるようにします。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

少子高齢化の進行や生活習慣病の増加、地域コミュニティの衰退など、現代社会は様々な課題に直面しています。

スポーツには、心身の健康の保持増進のみならず、人や地域のつながりを生み出すなど、人生をより豊かにするとともに、地域コミュニティを再生する力があります。そのため、市民がスポーツに親しめる様々な機会を提供し、スポーツを通じた交流の場の創出を図っていく必要があります。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 市民の生きがいづくりやスポーツに対するニーズに応えていく必要があります。
- スポーツは適切に継続することで、生活習慣病の予防・改善や介護予防につながり、健康寿命の延伸や医療費抑制への貢献が期待されることから、ライフステージに応じたスポーツの推進が必要です。
- 多様目、多志向性をもっている総合型地域スポーツクラブ^{*}の支援や、地域のスポーツ活動を支える指導者の育成など、スポーツ環境を整備する必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

ライフステージに応じたスポーツの推進

- (子どものスポーツ) 子どもの運動能力の向上を図るため、ジュニアスポーツ教室を開催します。また、子育て中の親子を対象に、子どもが運動やスポーツを体験する大切さと親子で楽しく実践できる運動やスポーツについて学ぶ教室等を開催します。
- (成人のスポーツ) 若者や働き盛り世代が仕事帰りなどにスポーツに取り組めるよう、夜間の教室を開催し、スポーツ活動の推進を図ります。
- (高齢者等のスポーツ) 高齢者や障がいのある人なども気軽に参加できるスポーツ教室・大会等を開催し、スポーツ活動の推進を図ります。また、障がいのある人とない人との交流が

図られるよう、障がいのある人への理解を深める啓発活動や障がい者団体等との連携強化に努めます。

競技スポーツの向上

- スポーツ関係団体と連携し、各種スポーツ教室・しらかわスポーツ祭を開催するなど、スポーツに親しむ機会を創出します。
- 競技力の向上や競技人口の拡大につなげるため、レベルアップ型スポーツ教室などを開催します。

誰もが利用しやすいスポーツ施設等の整備と利用促進

- 運動公園内における社会体育施設の改修及び更新については、施設長寿命化計画に基づき、古くなった施設の改修等を進めるとともに、市民が安心・安全に活動できる環境の整備に努めます。

スポーツを支える団体や人材等の充実

- 子どもから高齢者まで様々なスポーツを愛好する人々が集う総合型地域スポーツクラブの設立を支援します。
- 地域住民のスポーツ活動において、実技指導や助言、地域組織の育成などの役割を担うスポーツ指導者に対し、正しい知識に基づく指導ができるよう必要な支援を行います。



しらかわスポーツ祭ポッチャ競技

関連する計画

- 第2期白河市スポーツ推進計画
- 公共施設等総合管理計画
- 公共施設個別施設計画

用語解説

※ 総合型地域スポーツクラブ：幅広い世代の人々が各自の興味関心・競技レベルに合わせ、様々なスポーツに触れる機会を提供する、地域密着型のスポーツクラブのこと。

(2)

総務部の目標

市民の信頼に応える 行政を推進します

激甚化する自然災害など困難な課題に果敢に立ち向かう気概を持ち、多様なニーズに柔軟に対応できる人材の育成を図ります。また、市税などの自主財源の確保に努め、効率的で効果的な行財政運営に取り組んでまいります。

さらに、DXの推進により市民サービスの向上を図るとともに、情報の積極的な開示と厳正な管理により、開かれた信頼できる市政を実現してまいります。

【実現に向けて】

総務課

- 研修等により職員の能力向上を図り、最適な人員配置を行うことで、質の高いサービスを提供します。
- 個人情報を適切に管理し、市政に関する情報を早く正確に開示することにより、市民は市政を信頼し、安心して暮らすことができます。

財政課

- 日常生活において豊かさを実感できる財政基盤の強いまちを目指します。
- 公平公正な入札・契約に取り組むとともに、市民が安心して生活できる社会基盤づくりを目指します。(工事契約検査室)

行政経営課

- デジタルで拓く、質の高い市民サービスの実現と持続可能な行政経営を目指します。

税務課

- 納税者の自主納付により安定した行政サービスを持続的に提供できる財源を確保します。

総務課

めざすまちの姿①

研修等により職員の能力向上を図り、最適な人員配置を行うことで、質の高いサービスを提供します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

人口減少による地域活力の低下や頻発する自然災害などへの対応に加え、人々の価値観が多様化する中で、きめ細やかな行政サービスの提供が求められています。

限られた財源で、様々なニーズに応えていくためには、効率的・効果的な行政運営が不可欠であります。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 目まぐるしく変化する社会環境に対応するため、職員の政策形成能力等の向上と、機能的で創造性のある組織の構築を図る必要があります。
- 職員の能力や実績、適性等に応じた人事管理を行い、心身ともに健康で安心して働くことができる環境整備を図る必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

最適な人員配置の推進

- 複雑化・高度化する行政ニーズに対応し、将来にわたって安定した行政サービスを提供し続けるため、新たに定員管理計画を策定し、人員配置の最適化を推進します。
- 必要な職種や職員数を確保するため、新たな定員管理計画を策定します。

適正な人材の管理と人材の育成

- 階層別の研修や専門的な知識を高める研修に加え、政策形成や条例立案など大局的な考えを養う研修科目を職員に受講させることで、一人ひとりの能力を向上させ、社会経済情勢の変化に柔軟に対応できる人材を育成します。
- 人事評価や意向調査により、職員の能力や適性、希望を把握し、能力を十分に発揮できる部所に配置します。
- 各種検診やメンタルヘルス講習会等を実施し、職員の心身の健康維持に努めます。

めざすまちの姿②

個人情報適切に管理し、市政に関する情報を早く正確に開示することにより、市民は市政を信頼し、安心して暮らすことができます。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

市が保有している個人情報が不適切に扱われた場合は、市政に対する信頼が失われます。

このため、管理体制を強化し、個人情報の保護を徹底していく必要があります。

また、市政の情報について、求めに応じ正確かつ迅速に公開することで、市政に対する理解と信頼が深まります。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 職員が法令等を十分理解し、個人情報を適正に管理する必要があります。
- 情報公開請求には、正確で迅速な対応が求められています。

◆ 課題を解決するための取組み

個人情報の保護

- 「個人情報の保護に関する法律」に基づき、保有する個人情報の厳格な管理を徹底することで、個人の権利利益を保護し、市民に対する信頼を構築します。

的確な情報公開

- 厳正な公文書管理と開示請求への公正かつ迅速な対応を徹底することで、行政運営の透明性を確保し、市民の市政参加を促進します。

関連する計画

- 定員管理計画
- 人材育成基本方針

財政課

めざすまちの姿

日常生活において豊かさを実感できる
財政基盤の強いまちを目指します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、社会構造や生活スタイルに変化が見られていますが、これを地域再生のチャンスと捉え、歴史・文化のまちの魅力を積極的に発信するとともに、市民一人ひとりが誇りと愛着を持てるまちの実現を目指します。

また、未来へ希望を持ち次世代が安心して暮らせる魅力的なまちとして発展し続けるため、それを支える財政基盤の強いまちを目指します。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 財政構造の弾力性を示す経常収支比率は、高齢化に伴う扶助費や老朽化が進む公共施設の維持補修費、災害対応等による公債費の負担増により高い水準にあるため、政策的な事業に充てる財源を確保することが重要です。
- 臨時財政対策債の借入や合併特例債事業の実施などにより増加した、合併時点を上回る地方債残高を減少させる必要があります。
- 公共施設は、少子高齢化や社会経済情勢の変化などにより長期的な視点をもって計画的に更新、統廃合、長寿命化等を行っていく必要があります。

◆ 課題を解決するための取り組み

事業の見直し

- 限られた財源で、多種多様化する行財政需要や新たな行政課題に的確に対応していくため、予算編成や事業評価で既存事業の徹底した見直しを進めます。

繰上償還の実施

- 公債費の平準化と利子負担軽減のため、減債基金などを活用し、計画的に繰上償還を実施します。

基金への積立

- 将来の緊急的な支出などにも対応するため、毎年度、地方財政法第7条の規定に基づき、繰越金の一定額を基金に積み立てます。

公共施設適正管理の推進

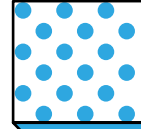
- 供給（最適な施設量）・品質（安全・安心・快適性の確保）・財務（長期にわたる経済的なコスト）の3つの視点から、施設の最適化に取り組み良質なサービス供給に努めます。



市役所本庁舎

関連する計画

- 白河市の財務書類
- 公共施設等総合管理計画
- 公共施設個別施設計画



工事契約検査室

めざすまちの姿

公平公正な入札・契約に取り組むとともに、
市民が安心して生活できる社会基盤づくりを
目指します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

建設業界では労働者の高齢化が進行し、慢性的な人手不足となっており、さらに、今後多くの労働者の引退が見込まれ、若い労働者の確保が急務となっています。

そのため、市では、引き続き、公平公正な入札契約に取り組むとともに、建設業界の「働き方改革」や、公共工事の適切な発注による施工時期の平準化を推進します。また、これにより、建設業者の経営や労働者の生活の安定、地域の担い手である建設業者の持続的な発展を目指します。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 年度管理された予算のため、年度初めの工事量が少なく、年度半ばから後半にかけての工事量が多くなっています。この施工時期の偏りを是正するため、国が示す「さしすせそ」の取組みを推進する必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

平準化に向けた取組み「さしすせそ」の推進

- ④債務負担行為の活用、⑤柔軟な工期の設定（余裕期間制度の活用）、②速やかな繰越手続、⑥積算の前倒し、⑦早期執行のための目標設定（執行率等の設定、発注見通しの公表）に積極的に取り組むとともに、早期発注に努め、施工時期の平準化につながる体制を整えていきます。



完了検査





行政経営課

めざすまちの姿

デジタルで拓く、質の高い市民サービスの実現と持続可能な行政経営を目指します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

多様化する市民ニーズに適切に対応できる効率的で効果的な行政運営が求められています。このため、業務の見直しを進めるとともに、デジタル技術やデータを活用し迅速で効率的な事務処理を可能とするなど、便利で豊かな社会の実現を目指します。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 多様化する市民ニーズに対し、限られた資源で迅速かつ質の高い行政サービスを提供し続ける必要があります。
- インターネットや SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）が利用できないなどのデジタルデバインド^{※1}が生じており、その解消が必要です。
- 快適で持続性のある行政経営を実現するため、デジタル技術を用いた DX（デジタルトランスフォーメーション）^{※2}の推進が必要です。
- 各種計画の進捗状況を的確に把握するとともに、データ活用による行政の効率化・高度化を図るため、正確な統計調査が必要です。

◆ 課題を解決するための取り組み

デジタルによる業務改革

- 職員が政策立案や相談などの業務に集中できるよう生成 AI 等のデジタル技術を活用し、単純な入力作業などの自動処理化を進めます。
- ワークライフバランスを実現するとともに、多様な人材の働きやすい職場環境をつくるためテレワークを推進します。
- 電子決裁システムなどの導入により、更なる業務時間の削減とペーパーレスを進めます。

デジタルでつながる市役所の推進

- 市役所に行かなくても、いつでも・どこでも・簡単に行政手続きができるオンライン申請を充実させるとともに、タブレット等の画面を通して、遠方でも子育てや移住、介護などの相談ができる環境を整備します。

- 書かない・待たない窓口環境を整備し、来庁する市民の負担を軽減します。

デジタル基盤・人づくり

- オンライン予約システムを導入することにより利便性の向上を図り、公共施設の利活用を促進します。
- スマホ教室を開催することにより、高齢者などのデジタルデバインドを解消します。
- 研修や講習会等を開催し、職員のデジタルスキルの向上に努めます。
- 地域経済の活性化・課題解決を図るため官民協働によるデータ連携を進めるとともに、情報共有を踏まえセキュリティ対策を講じます。
- デジタル化を推進するため公共施設等のネットワーク環境を整備します。

統計調査の円滑な実施

- 客観的なデータに基づき市の現状や課題を把握するため、各種統計調査を円滑に実施するとともにその結果を分析し施策に活用します。
- 市が保有するデータや各種統計調査の結果について、市民や事業者が容易に利活用できるようインターネット等を通して公開します。

最適な組織体制の構築

- 社会経済情勢の変化に柔軟に対応するため、適宜適切な人員配置と組織体制の見直しを行う。



DX 研修

関連する計画

- 白河市DX推進方針
- 白河市行政経営改革プラン
- 白河市情報セキュリティポリシー

用語解説

※1 デジタルデバインド（情報格差）：コンピュータやインターネットなどの情報技術を利用したり使いこなしたりできる人と、そうでない人の間に生じる、貧富や機会、社会的地位などの格差のこと。

※2 DX（デジタルトランスフォーメーション）：進化した IT 技術を浸透させることで、人々の生活をより良いものへと変革させるという概念のこと。

税務課

めざすまちの姿

納税者の自主納付により安定した
行政サービスを持続的に提供できる財源を確保します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

税金は行政サービスを維持・向上するため、社会全体で公平に負担するものです。税金を納めてもらえない場合、行政サービスが滞り、市民・納税者にとって暮らしにくいまちになってしまいます。

このため、公平かつ適正な課税を実施するとともに、未納者に適切な指導・処分を行い税負担の公平性を確保します。また、税情報の周知や租税教育を通して、税金を納期限内に自主的に納付してもらえるまちにしていきます。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 社会のキャッシュレス化の動きに合わせ、納税のキャッシュレス化など納付方法の選択肢を増やし、利便性を向上していく必要があります。
- 納税者に分かりやすい案内・周知を行い、利便性の良いデジタル化を推進することが重要です。
- 自主納付を促すきめ細やかな対応に努めるとともに、適切に滞納処分を行う必要があります。また、関係団体と協力して学校での租税教室を積極的に行うことで、納税意識の醸成を図る必要があります。
- 税制改正の内容について、効果的な案内・周知を図り、市民・納税者の理解を深める必要があります。

◆ 課題を解決するための取り組み

キャッシュレス納税をはじめとする利便性向上

- 共通納税システム（eLTAX）※による納税手段の拡大、納付確認システムを利用した車検時納税証明の省略により納税者の利便性向上を図っていきます。
- 利便性向上のため、さらに効果的な方法等について、調査・研究を行っていきます。

税務行政デジタル化への対応

- 関係機関と連携しながら案内・周知を進めることで、非接触・非対面による電子手続の活用を進めていきます。

未納者対策の実施

- コールセンターより未納者へ納税を促すほか、必要に応じて納付相談を行います。それでも納付がなされない場合は法令に基づき適切な滞納処分を進めます。

税金に関する情報の周知・啓発

- 納税者の知りたい税情報の案内・周知に加え、税務署と連携した「租税教室」の開催により、次代を担う子どもたちへ税金の意義や役割を理解してもらえるように努めていきます。

※課題を解決するためのすべての取組みに対し、さらに効果的・効率的な方法について調査研究を行っていきます。



租税教室

用語解説

※ 共通納税システム（eLTAX）：地方税における手続きを、インターネットを利用して電子的に行うシステムのこと。

(3)

市民生活部の目標

安全で安心な住みよい 地域社会にします

産学官連携による脱炭素社会の実現や利便性の高い行政デジタル化に向けた取り組みを推進していきます。

また、地域防災力の強化や防犯、交通安全対策などを講じた地域づくりとともに、思いやりの心をもった社会づくりを推し進め市民の暮らしを豊かなものとし、安全で安心できる住みよい地域社会を目指します。

【実現に向けて】

防災環境課

- 自然災害や交通事故、犯罪などから市民の生命と財産を守り、安全で安心に過ごせるまちを目指します。
- 豊かな自然と共生し、潤いのある環境を未来につなぎます。

地域生活課

- 誰もが安全に安心して生活できるまちとしての環境を整備するとともに、地域・人のつながりの醸成を支援することでコミュニティの強化を図り、特色ある地域づくりを目指します。
- 「ごみ減量」と「リサイクル」に取り組むことで、環境にやさしいまちづくりや資源の有効活用、そして将来世代への負担軽減につなげます。

市民課

- 効率的で質の高い行政窓口サービスを目指します。
- 誹謗中傷や差別的な言動のない、住みよい地域社会を目指します。



防災環境課

めざすまちの姿①

自然災害や交通事故、犯罪などから
市民の生命と財産を守り、
安全で安心に過ごせるまちを目指します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

日本はその地理的条件から台風や地震等の災害と向き合わざるを得ない宿命にあり、近年は地球温暖化や気候変動の影響により、大規模な自然災害が全国各地で発生しています。

平成 23 年に発生した東日本大震災や令和元年の台風 19 号などの教訓から、住民自らが自分（生命）を守る「自助」、町内会・自主防災組織や企業などによるつながりを持った防災としての「共助」、行政・消防・警察・自衛隊などによる公的機関からの支援である「公助」がそれぞれの役割を明確にするとともに、緊密に連携していくことが求められています。

また、地域防災力を強化するための防災意識の向上や担い手である消防団員の育成、消防施設等の計画的整備、さらには住民の高齢化にも対応できる救急・救助体制づくりが求められています。

次に、尊い命を交通事故から守るために、交通安全に取り組む体制の充実を図る必要があり、家庭や学校、職場、関係機関がそれぞれの役割を認識し連携を強化していくことが大切です。また、不審者から地域で子供たちを見守るとともに、近年巧妙化する詐欺犯罪等から若者や高齢者を守る必要があります。

これらのことから、市民一人ひとりが防災・消防、交通安全・防犯に対する意識を高めることにより安全で安心して暮らせるまちを目指します。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 大規模な災害が発生した場合には、行政、消防、警察などの公的機関による救助には限界があることから、近隣や町内会等が互いに助け合う「共助」による災害対策が必要とされています。
- 頻発化・激甚化する自然災害を想定した備蓄品の確保と適切な管理が必要です。
- 災害の発生状況を把握するため、情報の共有や道路・河川を監視するシステムを活用していく必要があります。

- 自主防災組織育成を強化するとともに、地域の防災拠点となる避難所の指定や整備が必要となります。
- 災害時の情報伝達手段を確保するため、情報通信基盤を整備する必要があります。
- 消防団員を確保するため、積極的な PR 活動により新入団員を増やす必要があります。
- 自然災害や火災対応の際に消防団員の身の安全を守るため、防火衣などの消防資機材の更新を計画的に図る必要があります。
- 交通事故発生件数に占める高齢者の割合は高く、今後、更に進む高齢化に対応するため、交通安全啓発をより一層推進する必要があります。
- 自転車利用者の交通違反や、歩行者の「あるきスマホ」などの行為が、重大事故につながる恐れがあるため、交通ルールを啓発する必要があります。
- 子どもや高齢者を交通事故から守るため、地域住民や行政などが一体となって、安全な交通環境の整備を図る必要があります。
- 子どもを狙った不審者情報や巧妙化する特殊詐欺等の犯罪情報の発信とともに、地域ぐるみの防犯体制を構築する必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

防災力の強化

- 多くの住民が参加する防災訓練を継続的に実施するとともに、防災マップや広報紙の配布に加え、防災ラジオや出前講座を活用することにより、平時から災害への備えができるよう、防災・減災意識の高揚を図ります。
- 防災減災対策としてのリーダー的存在である防災士の育成を図るとともに、自主防災組織の設立支援や防災資機材の交付などにより防災力強化を図ります。
- 市地域防災計画を含めた各種計画を見直し、防災・減災体制の充実を図ります。
- 国や県の防災システムを利用し、災害情報の共有を図るとともに、道路・河川の監視システムの活用し、防災力を強化します。
- 最大の被害状況を想定し、備蓄品の確保や備蓄倉庫の維持管理を行います。

災害時相互応援協定の推進

- 近隣の自治体や友好都市、更には民間企業との応援協定を締結し、災害時における応援協力体制を強化します。

消防体制の充実

- 消防団員の勧誘を継続的に行い、特定の活動のみに参加する機能別消防団の導入などを検討するとともに、訓練の見直しなどの負担軽減を図り、活動しやすい環境を整えるように努めます。

防災環境課

消防施設の整備

- 小型ポンプ、積載車、ポンプ車を計画的に更新するとともに、補助金等を活用しながら消防団員の装備品等を充実させていきます。

交通安全対策の実施

- 警察をはじめ関係機関や民間団体と連携して、交通安全運動を行い、交通ルールの遵守など交通安全意識の啓発に努めます。
- シートベルト着用などを促す街頭活動や交通教育専門員による通学路の安全確保など、市民や地域が一体となった交通安全活動を推進します。
- 子どもや高齢者など、各世代に応じた交通安全教育を推進します。

防犯意識の啓発・防犯体制の充実

- 犯罪被害に遭わないよう、防犯意識の向上に努めます。
- 警察署・防犯協会・防犯指導隊と連携し、地域によるパトロールや見守りを促進します。



交通安全教室



防災訓練

関連する計画

- 地域防災計画
- 第11次白河市交通安全計画
- 公共施設個別施設計画
- 白河市国土強靱化地域計画
- 公共施設等総合管理計画

防災環境課

めざすまちの姿②

豊かな自然と共生し、
潤いのある環境を未来につなぎます。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

今日の環境問題は、大気汚染、水質汚濁、騒音、ごみ問題といった日常生活の中で感じる身近なものから、地球温暖化が原因と考えられる異常気象の発生や生物多様性の危機等、地球規模のものまで、様々な課題に直面しており、市民生活への影響が顕在化しています。

このことから、美しい里山や清らかな水、澄み渡る空気、青空など、本市の豊かな環境を後世に引き継いでいくために、市民・事業者・行政が一体となって取り組むことが求められています。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 化石燃料の大量消費や製品の大量生産、大量廃棄など経済優先の生活様式を推し進めた結果、温室効果ガスの排出量が増え、異常気象や自然災害の頻発化をもたらし、作物の生育や生態系への悪影響を及ぼしています。
- 人間活動*の広がりが自然植生の減少や分断化を進行させ、絶滅の危機にある動植物が増えています。地球環境を取り巻く現状を市民や事業者に周知し、環境保全の重要性や必要性についての理解を得て、生活様式の変容を促す必要があります。
- 脱炭素社会を実現するためには、新エネルギーや再生可能エネルギーの活用に向けた技術の確立を図る必要があります。また、事業者において脱炭素化を促進するため、設備導入を後押しするコスト解消策（補助制度等）を周知する必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

自然環境の保全への意識の醸成

- 農地や森林、河川など多様な自然に生息、生育している多くの生物の棲み処を守るとともに、関係団体等と連携して、市民に自然と触れ合う機会や場を提供することで、自然環境の保全の重要性や必要性についての意識啓発を図ります。

再生可能エネルギー導入の推進

- 「地球温暖化対策実行計画」に基づき、公共施設の省エネや再生可能エネルギーを導入することで、温室効果ガス排出量を削減し環境負荷の低減を図ります。



かたくり

関連する計画

- 第3次白河市環境基本計画
- 地球温暖化対策実行計画(区域施策編)
- 公共施設等総合管理計画
- 公共施設個別施設計画

用語解説

※ 人間活動：地球上においてのヒトが、文明などといった形で行っている活動全般のこと。



地域生活課

めざすまちの姿①

誰もが安全に安心して生活できるまちとしての環境を整備するとともに、地域・人のつながりの醸成を支援することでコミュニティの強化を図り、特色ある地域づくりを目指します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

近年、全国的に町内会の加入率が低下し、地域活動の担い手不足が問題となっており、本市も例外ではないことから、地域活動を活性化させる必要があります。

また、誰もが暮らしやすいと感じることができる環境を整備するため、公共交通システム等の充実を図る必要があります。

高齢者や若者が巻き込まれる犯罪やトラブルが多様化し急増していることから、日常生活において消費者トラブルに巻き込まれないための対策を周知するなど、安全で安心して暮らせる地域づくりを目指します。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 町内会などの地域コミュニティ活動を活性化させる必要があります。
- 高校生などの若者が地域活性化活動やまちづくりへ参画することで、地域への愛着心を醸成する必要があります。
- 地域コミュニティの中核となる集会所を計画的に整備する必要があります。
- 結婚したいと思う人が安心して婚活できるように、結婚に対しての様々な不安を解消する仕組みを創る必要があります。
- 公共交通の維持・充実により、自家用車がなくても気軽に移動できる環境を整えていく必要があります。
- 消費生活センターにおける消費生活行政の充実と消費生活相談員の質の向上に取り組む必要があります。
- 「しらかわ地域定住自立圏の形成に関する協定」のもと県南9市町村による消費生活センター運営や事業の連携を図るとともに、消費生活相談の強化や啓発活動の充実に取り組む必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

地域の特性をいかした地域づくり

- 地域が抱える課題や問題を解決するため町内会や市民団体等から受けた提案を実現できるよう努めます。
- 特色ある地域コミュニティ活動への支援を実施します。
- 町内会等が実施する地域活性化活動への支援を実施します。

地域コミュニティの場の提供

- 婚活に不安を抱える男女の自然な出会いをサポートします。
- 結婚による新しい生活のスタートを支援します。

公共交通の維持・充実

- 多様化する移動ニーズや少ない需要にも対応した新たな交通システムの導入や公共交通の仕組みづくりを進めます。

消費者の安全・安心の確保

- 消費生活センターと関係機関との連絡体制を充実します。
- 消費者トラブルの対処方法や問題事例などの情報を提供します。
- 若者や高齢者等に向けた啓発活動を実施します。
- 消費生活相談員の研修機会の充実を図り、質の高い相談体制を整備します。
- 消費者問題に適切に対応するため、専門家（弁護士）による無料法律相談を定期的を実施します。



循環バス こみねっと



消費生活センター発足

関連する
計画

- 白河市地域公共交通計画

地域生活課

めざすまちの姿②

「ごみ減量」と「リサイクル」に取り組むことで、環境にやさしいまちづくりや資源の有効活用、そして将来世代への負担軽減につなげます。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

福島県は全国的に見て、1人1日あたりのごみ排出量が多く（ワースト上位の常連）、白河市は県平均よりも多くのごみを排出しています。

「ごみの減量」と「リサイクル」の取り組みを通して、ごみを減らすことが自然環境の保護や資源の有効活用にもつながることを市民に意識してもらい、環境にやさしいまちの実現を図ります。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 生活系ごみでは、生ごみが約35%を占めており、その中身の約80%は水分で燃えにくいいため、焼却コストの増加や環境負荷の要因となっていることから、生ごみを減らす必要があります。
- 燃えるごみの中には、資源化可能なプラスチックや紙類が混入しており、きちんと分別することで資源として利活用できることから、リサイクルに対する意識付けが必要となります。
- リサイクル（再生利用）をはじめ、リデュース（発生抑制）とリユース（再使用）を優先する意識を高める必要があります。
- ごみ出しのマナーが守られないケースがあるため、ごみ出しマナーの意識向上が必要となります。
- 観光地周辺のごみ集積所は、景観に配慮したデザインが望ましいため、ごみ集積ボックスを更新していく必要があります。



◆ 課題を解決するための取り組み

ごみ減量化への取り組み

- 分別の再徹底を啓発：資源化可能なプラスチックや紙類が「燃えるごみ」に混入するのを防ぐため、啓発活動を拡大し、3R（廃棄物を減らす「Reduce（リデュース）」、繰り返し使う「Reuse（リユース）」、資源として再利用する「Recycle（リサイクル）」を推進することで環境負荷の少ない社会を実現していきます。
- 「水切り」の徹底：生ごみ用の紙製水切り袋等の配布を行うことで、水切りの実践と水切りに対する意識付けを向上させていきます。
- 生ごみ処理容器等による減量化：生ごみ処理機、コンポスト等の購入に補助金を出すことで家庭等での導入を拡大させます。また、段ボールコンポストの積極的な活用も推進し、家庭での生ごみ減量を進めていきます。

環境にやさしいまちづくりの推進

- ごみ出しのマナーが向上するよう、多くの人が集まるイベント等での啓発活動を進めていきます。
- 地域住民と高校生が意見交換を行いながら、景観に配慮したごみ集積ボックスを高校生に製作してもらうなど、観光地にマッチしたごみ集積ボックスの設置を進めていきます。
- 環境学習教室などで、幼少期からの意識付けを行っていきます。



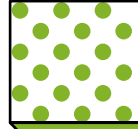
紙製水切り袋



景観まちづくり美化推進事業（白河実業高校機械科製作）

関連する計画

- 第3次白河市環境基本計画



市民課

めざすまちの姿①

効率的で質の高い
行政窓口サービスを目指します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

従来は、転出入の申請をする際は、転出及び転入する双方の市町村に来庁して手続きが必要で、異動が多い3月、4月は窓口が混雑し、長くお待ちいただくことがありました。

令和5年2月より、マイナンバーカードを活用し、転出届をオンラインで申請し転入先の市町村にのみ来庁することで手続きが可能となりました。

また、既にコンビニ等に設置してあるマルチプリンターを利用して、各種証明書の発行なども実施しています。

令和8年4月1日には、新たにマイナンバーセンターを設置し、引き続きマイナンバーカードの取得率向上に努めるとともに、利便性の向上と活用の推進を図ることなどにより行政窓口サービスの向上を目指します。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- マイナンバーカードを活用した効率的な行政窓口サービスを、より多くの市民に実感してもらうため、マイナンバーセンターや出張申請受付等により、マイナンバーカードの普及率を上げていく必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

マイナンバーカードの利便性の周知

- マイナンバーカードを利用することで、利便性が高まる行政サービスの導入が進められていることから、それらについて、広報紙、HP、各種 SNS を利用した周知活動を行います。

マイナンバーカードの普及

- マイナンバーカード普及促進のため、引き続きマイナンバーカード申請・交付特設窓口や時間外受け取り窓口を開設します。
- 市職員が市内の希望する団体を訪問し、写真撮影とマイナンバーカードの申請受付を行います。また、団体に限らず、一人暮らしの高齢者や障がいなどで交通手段がない人を対象とした個人向けサービスや、商業施設などにスマートカウンターの導入を検討します。



マイナンバーカード出張申請

関連する 計画

- 白河市DX推進方針
- 公共施設等総合管理計画
- 公共施設個別施設計画

市民課

めざすまちの姿②

誹謗中傷や差別的な言動のない、
住みよい地域社会を目指します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

「人権」は誰もが生まれながらにして持っている権利であるにも関わらず、子ども、女性、障がい者、外国人などに対する様々な人権問題が発生しています。

そこで、白河市思いやり条例により市及び市民の責務を明らかにすることにより、新型コロナウイルス感染症をはじめとする疾病、障がい、性別等を理由とした誹謗中傷又は偏見に基づく差別的な言動による社会的な孤立をなくし、市民一人ひとりが思いやりの心を持ち、互いに支え合う住みよい地域社会が実現してほしいと考えています。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- いじめや体罰を理由とした児童生徒の自殺・親の養育放棄による乳幼児の衰弱死など、子どもが被害者となる痛ましい事件が発生し、社会問題となっているため、人権の啓発活動を実施していく必要があります。
- インターネットの普及に伴い、その匿名性及び情報発信の容易さから、個人に対する誹謗中傷、名誉やプライバシーの侵害、差別を助長する表現の掲載など、人権に関わる諸問題が複雑かつ多様化しているため、人権に対する意識の醸成を図る必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

人権尊重思いやり事業の実施

- 小中学生を対象とした人権擁護委員からの講話や啓発物品の配布など、人権に関する事業を実施することで「仁」の心について考える機会をつくり、思いやりの心を育むことができるよう啓発活動を推進します。

「白河市思いやり条例」による市と市民の意識の醸成

- 「白河市思いやり条例」の趣旨及び人権尊重の理念を広く市民に浸透させ、人権擁護委員と連携しながら、正しい知識に基づく教育活動や不当な差別に対する適切な支援及び助言が行えるよう、啓発活動を実施します。



人権の花贈呈式



人権街頭啓発活動

(4)

保健福祉部の目標

地域でいきる みんなでつなぎ 支え合う福祉のまちにします

複雑、多様化する福祉ニーズに対応するため、行政をはじめ、地域住民や事業者、関係機関がお互いに協力して支え合う、福祉のまちづくりに取り組みます。

また、住み慣れた地域において健康で自立した生活が長く送れるよう、健康寿命の延伸を目指すとともに、白河の未来を切り拓く子どもたちが健やかに育てるよう、安心して子育てができる環境づくりに取り組み、子どもから高齢者まで、障がいのある人もない人も誰もが安心して生活できる福祉のまちを目指します。

【実現に向けて】

社会福祉課

- ゆりかごから墓場まで、障がいのある方もない方も、誰もが安心して暮らせる福祉のまちを目指します。

高齢福祉課

- 高齢者になっても住み慣れた地域で安心して暮らせるまちにします。

健康増進課

- 市民が安心して必要な医療が受けられるまちを目指します。
- 心身ともに健康で自立した生活が送れるよう、健康寿命の延伸を目指します。

国保年金課

- 正しい資格の被保険者証で安心して病院などを受診でき、健康診査や介護予防の一体的事業により、健康寿命の延伸を目指します。

こども支援課

- 子どもを産み育てることに喜びを実感できるまちを目指します。

こども育成課

- 安心して子育てできる環境を整備します。



社会福祉課

めざすまちの姿

子どもから高齢者まで、障がいのある方もない方も、誰もが安心して暮らせる福祉のまちを目指します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

人口減少と少子高齢化、核家族の進行、経済の停滞など、社会情勢や生活様式の変化、地域住民同士のつながりの希薄化に伴い、福祉に対するニーズは、複雑化・多様化するとともに、ますます高まっています。

このことから、行政をはじめ、地域住民や事業者、関係機関がお互いに協力して生活課題の解決に取り組み、子どもから高齢者まで、障がいがある方もない方も、誰もが安心して自立した日常生活を送ることができる環境を目指していきます。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 人々が暮らしていくうえで抱える悩みは、地域住民一人ひとりの共通の生活課題であると認識し、住民と関係機関、行政が連携して地域全体で福祉の充実にに向けて取り組む必要があります。
- 経済的な貧困や社会的な孤立など問題を抱えている人が増えており、複合化する課題を抱える本人やその世帯への支援がより重要です。
- 障がいのある方が地域で安心した生活を送るための支援や支援者及び介護者の負担を軽減する必要があります。
- 障がいの有無に関わらず、地域で共に生きる「共生社会」の実現のため、障がいに対する誤った理解・認識を解消することや障がいのある方への虐待防止の徹底が必要です。
- 障がいのある方が生きがいのある生活を送るためには、地域で意欲的に働くとともに、地域活動や芸術文化、スポーツなどの様々な社会活動に参加することが重要です。
- 日常生活で福祉に関する課題を抱えた時に十分な相談支援を受けることができ、福祉サービスを必要とする一人ひとりの状況に応じて適切な支援につながる体制の充実が必要です。
- 近年多発する自然災害に備えることを含め、地域住民が支えあい助け合うことができる地域となるよう日頃からの住民同士のつながりを持ち安心して生活できるコミュニティづくりが必要です。

◆ 課題を解決するための取組み

生活課題の支援

- 様々な悩みや困りごとなどをワンストップで相談できる「福祉まるごと相談室」の相談機能のさらなる充実を図るとともに、利用者が必要とするサービスを適切な機関等につなげる連携体制を構築します。
- 生活困窮者や社会とうまく関わることをできないひきこもり状態の人など、様々な困難を抱える人々に対し、関係機関と連携し、相談会の実施や居場所づくり、就労支援等自立に向けた支援に取り組むとともに、地域住民が思いやりをもって見守ることができる意識の醸成に努めます。
- 困りごとを抱える人や福祉サービスを必要とする人が、迅速にサービスを利用できるよう、すべての人にわかりやすい情報提供の充実に努めます。

障がいのある方への支援

- 障がいのある方が地域で安心して暮らせるよう、関係機関と連携し、家庭環境やライフステージ、心身の状況に応じた適切な障がい福祉サービスや医療給付の提供を推進します。
- 障がいのある方の親なき後に備えるため、緊急時の受け入れ体制の整備や成年後見制度の利用促進を図ります。
- 障がいのある方への就労支援を促進するとともに、地域活動をはじめ、文化芸術スポーツなど様々な社会活動への参加を促進します。
- 障がいの有無にかかわらず、お互いに人格と個性を尊重し、障がいのある方やその家族に対する理解、協力を促進するため、市民への障がいに関する意識の啓発を図ります。
- しらかわ地域障がい者虐待防止センターと連携し、専門的な相談対応や虐待の早期発見に努め、障がいのある方への虐待防止を図ります。

地域共生の支援

- 民生児童委員や各種団体等との連携を図り、市民による支え合いの体制づくりを進め、人と人が助け合うことができる地域となるよう、地域交流を促進します。
- 緊急時に支援が必要な人を支えるため、地域での要援護者の把握と見守り活動を推進します。
- 地域で生活する様々な人が、お互いの立場を理解し、協力し合える関係が築けるよう地域で支え合う環境づくりを推進します。

関連する計画

- 白河市地域福祉計画
- 白河市障がい児福祉計画
- 公共施設等総合管理計画
- 白河市障がい者計画
- 白河市障がい福祉計画
- 公共施設個別施設計画



高齢福祉課

めざすまちの姿

高齢者になっても住み慣れた地域で
安心して暮らせるまちにします。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

市民の多くが生涯、住み慣れた地域で過ごし続けたいという希望を持っており、高齢になってもその希望が叶えられるよう、本人とその家族を地域全体で支援していきたいと考えています。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 2040年には高齢者の3人に1人が認知症関連の症状が現れると見込まれることから、その支援について早急に取り組む必要があります。
- 身寄りのない高齢者や単身高齢者の増加に伴い、日常生活や施設入所時の対応、意思決定等において、支援ニーズが高まっています。
- 今後さらに高齢化が進むことが予想されており、介護従事者の不足が大きな課題となっています。介護状態になっても、地域で過ごす事ができるような環境づくりとともに、介護人材の確保・定着を図ることが重要です。
- 地域において高齢者が安心して生活していくためには、行政のみでは人的面、予算面において限界があるため、医療・介護を始めとした専門職との連携が重要となります。さらに、今後は地域における、企業や商店といった他職種や地域ボランティア団体との連携など、インフォーマルサービス^{※1}を充実させ、地域全体での高齢者を支えるための仕組みづくりが必要です。
- 高齢者が地域で孤立しないよう、支えが必要になった時、行政や近所に自ら声をあげやすい環境づくりを推進する必要があります。

◆ 課題を解決するための取り組み

地域包括ケアの推進

- 「高齢者サポーター」や「認知症サポーター」等のボランティアの育成を進めます。
- 「高齢者サロン」や「居場所づくり事業」「認知症カフェ」等の住民を主体とした、ボランティア活動を活性化させ、地域における高齢者の見守り体制の構築と、高齢者の社会参加を促し、様々な活動を通じて、高齢者のフレイル^{※2}予防、介護予防につなげます。

高齢者福祉サービスの推進

- 高齢者が住み慣れた環境で安心、安全な生活を送れるよう、きめ細やかなサービスを継続して提供していきます。また、「お元気コール」や「移動販売事業」では、高齢者が孤立しないよう高齢者サービスの案内とともに、日常的な相談にも対応していきます。
- 今後の高齢者人口の増加や生活支援サービスに対するニーズの変化に合わせ、サービス体制の充実を図ります。
- 介護人材の確保に向け、介護のイメージアップや就学、就労支援を推進し、人材の確保・定着を図ります。



高齢者サロン

関連する計画

- 第9期高齢者福祉計画
- 第8期介護保険事業計画
- 公共施設等総合管理計画
- 公共施設個別施設計画

用語解説

※1 インフォーマルサービス：家族をはじめ近隣地域社会、NPO やボランティアなどが行う援助活動で公的なサービス以外のもののこと。

※2 フレイル：病気ではないが、年齢とともに、筋力や心身の活力が低下し、介護が必要になりやすい、健康と要介護の間の虚弱な状態のこと。



健康増進課

めざすまちの姿①

市民が安心して必要な医療が受けられるまちを目指します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

全国的に急速な高齢化が進み医療や介護ニーズの高まりがある中、県南地域は県内でも医師数が少ないうえ、年々市内の診療所も減少しており、さらに看護師等の医療人材の不足が懸念されます。

このことから、健康で自立した生活が長く送れるよう、一人一人がかかりつけ医を持ち定期的な受診による健康管理を行うとともに、早期に適切な診療科目の受診を心がける人が増えてほしいと考えています。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 市内2病院に対して救急医療・周産期医療・小児医療確保のための支援を行うことで、医療を維持できる水準が保たれていることから、支援の継続と救急医療体制等の維持を図る必要があります。
- 県南地域は、県内でも医師及び看護師等医療人材が不足しているため、医療人材確保対策の継続が必要となります。
- 今後新たな感染症の出現や再興感染症^{※1}が流行する可能性も懸念されることから、基本的な感染予防対策が重要であるという意識を醸成していくことが必要となります。
- 各種感染症の予防のため、予防接種は大変重要な対策であり、乳児期における接種率は高いものの、年齢があがるにつれ接種率が低下してくる傾向にあることから、個別に勧奨通知や正しい情報の周知等、接種率向上に向けた対策の継続が重要となります。

◆ 課題を解決するための取組み

医療体制及び医師確保の推進

- 白河医師会や西白河地方市町村等と連携し、休日、祝日、平日夜間の救急医療体制と県南地域4か所の二次救急医療機関の維持継続、応需率^{※2}向上のための支援を継続します。

- 医師会等関係機関と連携し開業医師に関する情報収集に努めるとともに、医師確保のための事業を継続します。
- 看護師等の医療人材の確保のため、白河医師会准看護学院等への支援と、保健師・看護師を目指す学生の臨地実習^{※3}を通して、人材育成の支援を図ります。
- 二次救急病院や医師の負担軽減のため、市民に市内の医療の現状と夜間・休日等の適切な医療機関の利用方法、救急車の適正利用などについて啓発を行います。

感染症対策の推進

- 各種感染症の予防のため、基本的感染対策の推進及び発症・重症化予防のためのワクチン接種の重要性、高齢者に発症が多くみられる結核の早期発見のため、検診受診の必要性等について、周知を図っていきます。



基本的な感染症対策

関連する計画

- 第2次いきいき健康しらかわ21(後期)(白河市健康増進計画・自殺対策計画)
- 第2期白河市国民健康保険データヘルス計画
- 第3期白河市国民健康保険特定健康診査等実施計画
- 第2期白河市子ども・子育て計画
- 第2期白河市地域福祉計画
- 公共施設等総合管理計画
- 公共施設個別施設計画

用語解説

※1 再興感染症：その発症が一時期は減少していたが再び注目されるようになった感染症（結核等）の総称のこと。

※2 応需率：救命医療の機能を測る指標で、救急受け入れ要請のうち、受け入れた割合のこと。

※3 臨地実習：医療従事者をを目指す学生が実際に病院や診療所、保険・福祉施設へ行って実践的な臨床を学習する授業のこと。



健康増進課

めざすまちの姿②

心身ともに健康で自立した生活が送れるよう、健康寿命の延伸を目指します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

本市の死亡原因は全国と同様に、がんや心疾患、脳血管疾患等生活習慣病によるものが多く、全体の半数以上を占めており、今後も急速な高齢化とともに、生活習慣病や認知症高齢者が増えていくことが予想されます。

また、社会環境の変化により、人と人とのつながりが希薄化しているため、孤立・孤独感等、複雑・多様化する心の悩みや不安に対応していくことが大切となります。

このことから、自立した生活をできるだけ長く送れるよう、心身の健康管理に対する意識を高く持つ人が増えてほしいと考えています。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 国では、がん検診受診率の目標値を50%以上と設定し精検受診率についても90%以上を目標としていますが、胃がん・大腸がん・肺がん検診では目標値に及ばない状況にあるため、各種がん検診の受診率向上対策を進める必要があります。
- 特定健診の結果では血圧や血糖、脂質の有所見者は、それぞれ全体の約半数を占め、さらに内臓脂肪症候群該当者及び予備群者の割合は男女ともに増加傾向にあることから、生活習慣病の発症や重症化を予防するため、正しい知識の習得、生活習慣の改善や自主的健康活動の支援を継続して勧める必要があります。
- コロナ禍において、運動や社会参加の機会が減少し、自主的な健康増進活動が停滞したことから、高齢者のフレイル等による要介護のリスクが高まっており、小さなコミュニティの活用や継続しやすい健康づくりを推進する必要があります。
- コロナ禍により、人との交流や、悩みを相談する機会が減ったことから、孤立しないよう相談しやすい体制づくり等が重要となります。
- 自殺予防対策を進めるため、多様化した悩みや問題に対応できるよう、関係部局と連携を図る必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

各種健診（検診）受診率向上の推進

- 働いている人や若い年齢層も予約しやすいシステムの工夫や土曜健診（検診）日の設定、前年度受診者へは継続受診を促す仕組みづくり等、健診を受けやすい環境を整えます。
- 広報白河や保健センターだよりでの周知のほか、SNSでの発信も取り入れながら受診勧奨を実施します。
- 各種健診（検診）と精密検査の受診率向上を図るため、がん検診・特定健診の同時実施や、受診勧奨通知の送付等、効果的な受診勧奨に取り組みます。

健康づくり・健康管理の推進

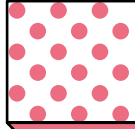
- 健診結果説明会等における住民に寄り添った保健指導の体制を整え、指導率アップを目指します。
- 高血圧・減塩対策として、小学生から指導の継続や、尿中塩分量が多い人を対象とした、医師、保健師、管理栄養士による指導の充実を図ります。
- ダイエットや禁煙指導などを継続し、生活習慣の改善を支援します。
- 自主的な健康活動を活発化させるため健康ポイント事業を継続するとともに、健康無関心層や働く世代の事業参加者を拡大するための取り組みを推進します。
- 高齢者の保健事業と介護予防の一体的事業や、介護予防事業を継続し、高齢者の特性に応じたフレイル予防のための支援の充実を図ります。

自殺予防対策の推進

- 心の相談やゲートキーパー養成講座、心の健康づくり講演会、心の相談カード配布による普及啓発事業等を継続し自殺予防対策の推進に努めます。
- 若年層の自殺予防対策として小中学生とその保護者を対象に命の教育や自己肯定感を高める講話を継続していきます。
- 自殺対策庁内連携会議を開催し、自殺の現状と各関連事業の進捗について共有するとともに、多様な相談に関係部局と連携して対応することで自殺予防対策を進めていきます。

関連する計画

- 第2次いきいき健康しらかわ21（後期）（白河市健康増進計画・自殺対策計画）
- 第3次白河市食育推進計画
- 第2期白河市国民健康保険データヘルス計画
- 第3期白河市国民健康保険特定健康診査等実施計画
- 白河市こども子育て計画
- 白河市第9期高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画
- 第2期白河市地域福祉計画
- 公共施設等総合管理計画
- 公共施設個別施設計画



国保年金課

めざすまちの姿

正しい資格で安心して病院などを受診でき、健康診査や介護予防の一体的事業により、健康寿命の延伸を目指します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

すべての人が加入し、病気や怪我で病院や薬局などを受診する際、医療費の支払いが定められた負担割合となる公的保険制度を「国民皆保険制度」と言います。その保険制度で今、医療技術の高度化や高齢化の進行などから、一人当たり医療費が増加しています。健康寿命の延伸のためには、自身の健康状態を把握し、糖尿病・糖尿病性腎症をはじめとする生活習慣病にならないこと、なってしまった場合は重症化を予防することが大切です。

このことから、国民健康保険被保険者は特定健康診査・特定保健指導などの保健事業に参加し、75歳以降に加入する後期高齢者医療被保険者は、高齢者健康診査に参加し、健康の保持増進を図り、健康寿命を延伸してほしいと考えています。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 自分が加入する健康保険を正しく理解せず、必要な加入手続きをしないまま受診すると、医療費を全額自己負担することになったり、医療費の返還を求められたりするなどのトラブルや遡っての国保税の賦課などが発生することから、正しい資格情報が必要です。
- 特定健康診査受診率については、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、完全予約制や実施場所の集約などの対応をしながら、受診率を向上する必要があります。
- 高齢者は、複数の慢性疾患に加え、認知機能や社会的なつながりが低下するといった、いわゆるフレイル状態になりやすいなど、疾病予防と生活機能維持の両面にわたるニーズを有していることから、高齢者の保健事業と介護予防事業を連携して一体的に取り組むことにより、健康状況や生活機能の課題に対応する必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

正確な資格による適正受診の推進

- 国民健康保険の加入や脱退の制度について、丁寧な説明を心がけます。特に脱退時は、市役所に来庁する手間がないように、オンラインで脱退できる仕組みの活用を推進します。
- 正しい資格加入手続きとマイナンバーカードの健康保険証利用により、医療機関でオンライン資格確認や健診結果の共有など様々なメリットがあることから、周知を図り推進します。

健康診査及び保健指導の推進

- 前年度の集団健診受診者には、改めて予約が必要ない仕組みをつくります。
- はじめて健診を受診する人などが予約しやすい環境を整えます。
- 国民健康保険被保険者に効果的な受診勧奨を行うことで、受診率の向上を図り、健康意識の改善に努めます。
- 雇用先等に対し健康診査を受けやすい環境整備についての啓発を推進します。

高齢者の保健事業と介護予防の一体的事業の推進

- 高齢者の保健事業と介護予防のため、健康増進課、高齢福祉課及び国保年金課による一体的な事業を実施します。
- 医療専門職等が、国保データベース（KDB）データから得たハイリスク者の重症化を予防するために、個別に訪問指導して、健康状態の現状維持または改善を促します。
- 3課が共同し、仲間と一緒に学ぶ、改善するなど、心身の健康維持や認知症予防のため、通いの場への参加を促します。また、健康志向を高めるために、健康ボランティアを育成し、高齢者同士が予防のために気軽にチェックしあえる体制を整えます。



- 第2期白河市地域福祉計画
- 第2期白河市国民健康保険データヘルス計画
- 第3期白河市国民健康保険特定健康診査等実施計画

こども支援課

めざすまちの姿

子どもを産み育てることに喜びを
実感できるまちを目指します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

経済的な理由や地域社会における関わりの希薄化などにより、子育てに負担や不安を感じる人が増えています。

子どもを産み育てたいと願うすべての親たちが、地域の中で安心して子どもを産み、希望と喜びを感じながら子育てに励み、白河の未来を切り拓く子どもたちが健やかに育ってほしいと考えています。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- ハイリスク妊婦^{※1}や特定妊婦^{※2}が増加傾向にあるため、妊娠期から出産・子育て期と各段階できめ細かで切れ目のない支援を継続していく必要があります。
- 発達障害や愛着形成不全の子どもが増加傾向にあるため、様々な機会を通して子どもとの関わり方について指導していくとともに、就学前に、支援を要する子どもの情報を保育園・幼稚園と小学校との間で共有し、連携して支援していく必要があります。
- ひとり親や経済的に困窮した家庭の子ども、ヤングケアラー^{※3}などが、生まれ育った環境によって将来が左右されることがないように、様々な支援を継続していく必要があります。
- 児童虐待が増加傾向にあるため、児童相談所や警察署、学校等関係機関と緊密に連携し、虐待の早期発見・早期対応に努める必要があります。
- 医療費助成の登録手続きや、償還払いの各種医療費助成申請など窓口での手続きが必要となり負担となっているため、DX化を進め手続きの簡素化に取り組む必要があります。
- 少子化は、結婚・出産・子育てによる経済的負担感や仕事と家庭の両立への不安など、様々な要因により進んでいるため、子育て世代の実情に応じた支援をしていく必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

子育て世帯への経済的支援の推進

- 各種手当や医療費の給付を円滑にすすめていくほか、子育て世帯のニーズを把握し「白河っ子すくすく応援クーポン券支給」のような本市独自の経済的支援策を実践していきます。



- ひとり親家庭が経済的に安定しゆとりをもって子どもに接する時間が持てるよう、ハローワークと連携して就労を手助けし、自立に向けた働き方ができるよう支援していきます。
- 忙しい子育て世帯の生活をより便利で豊かに変えるため、各種申請手続のオンライン化を推進します。

子育て支援の充実と問題を抱えた家庭に対する支援の推進

- 子育てひろばや子ども食堂などを運営する団体と連携し、課題を抱えた子どもの把握に努め、各々の事情に応じた効果的な支援策を検討し実践していきます。
- 子どもの養育など家庭内の様々な問題や悩みの相談を受けるとともに、児童虐待が懸念される家庭を観察・指導し、児童が身体的・精神的苦痛を味わうことがないよう関係機関と連携し支援していきます。
- ヤングケアラーの把握に努めるとともに、ケアラーの意思を尊重しつつ必要な支援に取り組みます。

妊娠期から子育て期にわたる相談・支援の推進

- 妊娠期及び出産後に心身ともに健康を維持できるよう、妊産婦訪問指導や産後ケアなどきめ細かで切れ目のない相談支援を継続します。
- 乳幼児健診などの機会に子どもの健康や発達状況、愛着形成などを確認し、必要に応じてのびのび教室など各種教室の利用を促し、児童の健やかな成長を支援します。
- 子どもの発達状況を幼稚園・保育園において確認し、就学に向けて助言等の支援を行います。また、幼稚園・保育園と小学校の連携を深め、就学後も継続して支援します。
- すべての子どもとその家庭及び妊産婦を一体的に支援する「こども家庭センター」を設置し、支援体制の強化を図ります。

少子化対策の推進

- 20代から40代を中心とする子育て世代の声の把握に努めていきます。
- 少子化に関する様々な要因や課題について担当部署を超えた組織横断的な検討を行い、具体的な施策に結び付けていきます。

関連する計画

- 第2期白河市子ども・子育て計画
- 白河っ子未来応援計画
- いきいき健康しらかわ21(後期)(白河市健康増進計画・自殺対策計画)
- 第3次白河市食育推進計画
- 公共施設等総合管理計画
- 公共施設個別施設計画

用語解説

- ※1 ハイリスク妊婦：妊婦自身、また胎児の健康や命に何らかの問題が生じる可能性の高い妊婦のこと。
- ※2 特定妊婦：出産後の子どもの養育について出産前において支援を行うことが特に必要と認められる妊婦のこと。
- ※3 ヤングケアラー：本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものこと。



こども育成課

めざすまちの姿

安心して子育てできる環境を整備します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

子どもや家庭を取り巻く環境は、核家族化、共働き世帯の増加、都市化の進展等による連帯意識の希薄化などにより大きく変化し、家庭や地域における養育機能は低下しています。

児童を健やかに育成していくことは、家庭だけでなく地域にとっても大きな意味を持っており、地域社会が保護者に寄り添い、子育てに対する負担や不安・孤独感を和らげ、保護者が安心して子育てできる環境づくりが重要になります。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 社会情勢の変化に伴い共働きの家庭が増加し、保育園・幼稚園における役割や保護者が当該施設に期待することも変化していることから、ニーズを的確に捉え、効果的な施策展開を行う必要があります。
- 保護者が安心して子どもを預けられるよう、保育士不足の解消が必要です。
- 保育施設を健全な状態で維持できるよう、統廃合も含め計画的に整備する必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

保育サービスの充実

- 急な子どもの病気に対応できない保護者のために、一時的に預かり、子どもの病気のケアなどの支援を行います。
- 保育士不足の解消のための支援を行うことで、待機児童を減らしていきます。
- 子どもを保育するための専門的な知識の向上を図り、多様な保育ニーズに対応できる質の高い人材の育成を図ります。
- 子どもの豊かな人格形成に寄与するため、音楽や劇、運動、自然との触れ合い、その他学習など、多様な学びの機会の創出を図ります。

保育園等の施設の充実

- 施設の老朽化対策を実施するとともに、統廃合を含めた施設の更新や大規模改修については、計画的な整備を行います。
- 施設の更新や大規模改修においては、多様化するニーズに応えるため、その時代に合った使いやすい施設整備を行います。



幼稚園の遊具

関連する計画

- 第2期白河市子ども・子育て計画
- 白河市公共施設個別施設計画

- 白河市公共施設等総合管理計画
- 第3期白河市読書活動推進計画

(5)

産業部の目標

地域の特性と資源をいかした 活力あるまちにします

少子化や若者の流出などによる労働力の減少、不安定な社会経済情勢、デジタル化などの課題に積極的に取り組んでまいります。

各産業において、本市の優位性や豊富な地域資源を活用し、関係人口の増加や産業連携による新たなビジネスモデルの構築を図ります。

また、起業・創業や新規就農、UIJ ターンへの支援により、若者をはじめ、それぞれの世代が生きいきと働き、活躍できるまちづくりを進めます。

【実現に向けて】

観光課

- 訪れたいまち「白河」を目指します。

商工課

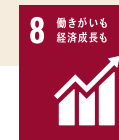
- 多様な人材が地域で活躍し、将来に渡り賑わいと活力にあふれたまちを目指します。

農政課

- 多様な形態や担い手による、地域農業の発展を目指します。

農林整備課

- 地域資源を活用し、安定した農林業を行えるようにします。



観光課

めざすまちの姿

訪れたいまち「白河」を目指します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

新型コロナウイルスの影響により全国的に観光客が大幅に減少しているものの、徐々に回復の兆しが見え始めており、本市へ訪れる観光客の増加を目指すため、本市の魅力をこれまで以上にPRする必要があります。

このことから、美しい自然と歴史や文化があふれる白河の様々な魅力に更に磨きをかけ、「訪れてみたい」「また来たい」と感じてもらえるまちを目指します。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 本市を含む県南地域は、首都圏や東北地方からの交通アクセスに恵まれている一方、那須地域や会津地域などの主要観光地を目指す人が多いことから、旅行者の滞在時間を延長させ、市内での消費を促すことが重要です。
- 本地域の知名度は全国的にもまだ低いことから、県南9市町村をはじめ、栃木県那須町や会津地域などと広域的な連携による地域情報の発信が重要です。
- 現在、日本に訪れる外国人観光客が求める「日本観光」の趣向に変化がみられ、主要観光地を巡る動きから、四季折々の美しい自然や風景、地域特有の文化に魅力を感じて地方を訪れる観光客が増加しています。このような外国人に白河の魅力を伝え、白河へ迎え入れるインバウンド観光[※]のPRが重要となっています。

◆ 課題を解決するための取組み

体験型観光の充実と滞在時間の延長

- 「自然」や「工芸」などをテーマとした新たな体験型の観光プログラムを充実させます。
- 南湖公園、小峰城、白河関、白河ラーメンなどの観光資源に磨きをかけ、これらを活用した観光ルートの提案など、白河の魅力を満喫できる観光メニューの開発に取り組みます。

広域的な連携と知名度の向上

- 「知ってもらう」「来てもらう」「食べてもらう」をキーワードに、新たな観光資源のPRを行います。
- 県南地域や栃木県那須町と連携し、「狛犬」や「温泉」、「発酵食品」などの観光資源を活用したイベントの開催やSNSを活用した情報発信を行います。
- 全国的にも認知度の高い白河ラーメンと他の観光資源を組み合わせ、本市の知名度向上を目指します。

訪日外国人へのPRと観光案内の多言語化

- 台湾やシンガポールなど、東南アジアを中心とした地域からの外国人観光客の獲得を目指します。
- 観光パンフレットや観光サインの多言語化を促進します。
- これまでも交流を図ってきた台湾との交流を更に深め、観光だけでなく、子供たちへの教育面や文化面での交流を促進します。
- 外国人観光客が増加している奥会津や栃木県那須町と連携し、本市を含む新たな観光ルートの構築を図ります。



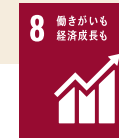
南湖フェスティバル

関連する計画

- 白河市観光振興計画
- 公共施設等総合管理計画
- 公共施設個別施設計画

用語解説

※ インバウンド観光：外国人が訪れてくる旅行のこと。



商工課

めざすまちの姿

多様な人材が地域で活躍し、
将来に渡り賑わいと活力にあふれたまちを目指します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

本市は、製造品出荷額が県内第4位となっており、中小ものづくり企業の集積地となっています。しかし、全国的に人口減少や少子高齢化が進む中、進学や就職による若者の大都市圏流出に歯止めがかからず、若い世代の労働力が慢性的に不足する一方、女性や高齢者が希望する仕事の内容や労働条件が少なく、雇用のミスマッチが生じています。

このことから、若者が就職したいと思える魅力的な企業が増え、また女性や高齢者など多様な人材が、それぞれの事情に応じて柔軟に働くことができ、将来に渡り安心して生活できる社会を実現したいと考えています。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 少子高齢化の進行による若い世代の人口減少や、大学進学を機に市外へ転出した若者がそのまま市外で就職することなどにより、地域中小企業の慢性的な人手不足が続いていることから、中小企業の労働力を確保する必要があります。
- 慢性的な人手不足が続いており、中小企業にとって生産性向上や業務効率化に欠かせないDX（デジタルトランスフォーメーション）への取組みが必須であることから、DXへの理解と企業内での専門人材の育成等を進める必要があります。
- 少子高齢化や人口減少により労働者不足が進む中、女性の労働力の活用が地域社会や経済の維持発展に必要不可欠となっている一方で、出産や子育て、介護等によりやむを得ず離職した女性が家庭と仕事を両立しながら働ける場所が少ないことから、女性が働きやすい環境の整備や柔軟な働き方の推進が必要です。
- 若者の地元定着を図るため、生産工場だけではなく、開発、研究機能を有した拠点を含めた企業誘致活動を行っていく必要があります。
- 多様な人材が活躍できるよう、製造業以外の新しい産業を育成・支援していく必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

人手不足の解消

- （一社）産業サポート白河の「しらかわ企業データベース」や市公式LINEなどを活用し、地域の優良企業の魅力や就職支援情報等を発信するとともに、白河商工会議所等の支援団体と連携し、地域企業の合同企業説明会を開催し、若者の地域企業への就職を後押しします。
- 地域企業と協力して、こどもたちを対象としたものづくり体験教室を実施し、ものづくりの楽しさを伝え、将来のものづくり人材の育成に取り組めます。
- ICT技術を活用したテレワークなど、時間や場所に捉われない柔軟な働き方を推進し、子育てや介護によりフルタイムでの就労が難しい女性や退職後の高齢者がその状況に応じて働くことが出来る環境づくりやキャリアアップの機会を提供していきます。
- ハローワーク白河と連携し、育児等で離職した女性の再就職を支援するとともに、働きやすい職場環境づくりを企業に啓発していきます。

地域企業のDXの推進

- デジタル技術を活用し、生産性向上や業務の効率化による企業価値の向上に取り組む地域の中小企業を支援します。
- 中小企業のDXを推進するため、企業のデジタル人材の育成や専門家の活用を支援します。

魅力ある企業の誘致

- 本市独自の優遇制度である「企業立地奨励金事業」をPRするとともに、本市の立地の優位性や子育て・教育環境、歴史や文化など市の魅力を発信し、成長産業やデータセンター等の誘致を進めていきます。
- サテライトオフィス&コワーキングスペース「ラ・クリエーションプラス」を活用し、IT企業のサテライトオフィス誘致を進めていきます。

起業・創業の推進

- （一社）産業サポート白河や白河商工会議所と連携し、起業・創業セミナーを実施するとともに、補助金や融資制度等のスタートアップから経営や販路開拓などまで切れ目のない支援により起業家を育成します。

地場産業の振興と知名度の向上

- ふるさと納税などを活用し、本市の魅力的な施策や特産品を発信していきます。

関連する計画

- 地域未来投資促進法に基づく基本計画
- 白河市創業支援等事業計画
- 公共施設等総合管理計画
- 公共施設個別施設計画



農政課

めざすまちの姿

多様な形態や担い手による、 地域農業の発展を目指します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

高齢化による担い手の不足が全国的に進むとともに、人口減少に伴う食料需要の減少、貿易の自由化、地球温暖化の影響、さらには世界情勢の不安定化を背景とした輸入依存からの見直しなど、わが国の食料生産を取り巻く環境は大きく変化しています。加えて、本県では原子力災害に伴う根強い風評が残るなど、依然として多くの課題が残っています。

こうした状況を踏まえ、本市では農業に適した自然環境や首都圏へのアクセスの良さといった特色をいかながら、農業の生産基盤を強化するため、経営の効率化や規模拡大、新たな技術の導入、新規就農者などの将来の担い手の確保、環境に配慮した農業生産の推進に取り組み、地域における食料生産を将来にわたり継続していけるよう支えていきたいと考えています。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 頻発する自然災害や価格下落などのリスクへの対応をはじめ、生産者が抱える課題が多様化・高度化していることから、県や関係機関等との連携を強化しながら、各地域や生産者の実情に即した総合的な支援を行っていく必要があります。
- 高齢化や担い手不足などを背景に生産者が減少傾向にあり、耕作放棄地の拡大が懸念されていることから、意欲ある担い手を確保するとともに農地の集積・集約化を進め、地域農業を維持していく必要があります。
- 農業分野においても環境に配慮した取り組みが求められていることから、地域ぐるみで環境保全型農業の普及に取り組んでいく必要があります。
- 原子力災害に伴う風評が根強く残っていることから、市内産農産物が安全であるとともに、品質も優れた魅力的な食品であることを市内外に広く伝え、消費の面からも生産者を支援していく必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

農業生産基盤の強化

- 農業者をはじめ、農業委員会や農業協同組合等の関係機関と連携しながら優良農地の確保

や保全に努めるとともに、農地中間管理事業を効果的に活用しながら地域計画策定の取組みを支援し、意欲ある担い手への農地の集積・集約を推進します。

- 意欲ある担い手の経営規模の拡大や効率化、技術力や経営力の向上を推進するため、機械や施設の新規導入や、新しい知見を得る機会の提供などの支援を行います。
- 将来における地域農業の担い手を確保するため、新規自営や雇用、親からの継承といった様々な形態での就農を支援するとともに、本市の農業の魅力や支援策を広く周知します。

環境に配慮した農業の推進

- 環境に配慮した農業生産の拡大に向けて、生産者に対し技術的な情報や支援策の周知を図ります。
- 農業分野における環境保全について、国の「みどりの食料システム戦略※」を参考としながら、生産・流通・消費といった食料システム全体を通じた理解を得ることで具体的な取組みにつなげるため、広く周知を図ります。

市内産農産物の魅力発信と消費拡大

- 市内産の農産物について、安全性と品質をはじめとした魅力を知ってもらい、消費の拡大を図るため、市内外の消費者に広くPRするとともに、新たな加工品の開発や販路拡大に向けた取組みを支援し、生産と消費の両面から振興を図ります。

関連する計画

- 白河農業振興地域整備計画
- 白河市農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想
- 公共施設等総合管理計画
- 公共施設個別施設計画

用語解説

※ みどりの食料システム戦略：国内農林水産業の生産力強化や持続可能性の向上を目指し、2021年5月に農林水産省が策定した食料生産の方針のこと。

農林整備課

めざすまちの姿

地域資源を活用し、
安定した農林業を行えるようにします。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

全国的に農業用施設の老朽化が懸念されている中、本市においても施設の老朽化が進行しており、また営農者の高齢化・担い手不足等も相まって、農業経営を取り巻く環境が危機的状況にあります。

このことから、今後も持続的に安心した農業経営を維持させる環境を整備する必要があると考えています。

また、全国的に森林は、戦後造成された人工林の多くが本格的な木材の利用期を迎えており、この豊富な森林資源を循環利用することにより、国土の保全や地球温暖化防止等の森林の有する多面的機能が確保されます。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 農業用施設の老朽化が進む中、市内営農者が引き続き、営農を続けていきたいと思えるような環境を維持していく必要があります。
- 地域の組織単位で営農に取り組んでいる人々が地域の特性をいかし、今後も地域に対する愛着や誇りを醸成していくため、市が支援していく必要があります。
- 森林環境に対する意識啓発や、林業の成長産業化と森林の適切な管理を両立していくことが必要です。

◆ 課題を解決するための取り組み

農業用施設長寿命化の推進

- 農業用施設の機能保全計画に基づき、施設の更新補修及び維持を実施していきます。
- 結支援事業等を活用し、U字溝等の資材を地域に提供し、地域のニーズに合った施設維持管理に努めていきます。

農業の地域組織の取組み支援

- 農地の持つ多面的機能を維持していくため、保全活動に取り組む団体・組織の継続支援と新規取組みへの支援を行います。
- 中山間地で農業を行う人のため、活動組織の継続支援と新規取組者への支援を行います。

未来の森づくりの取組み支援

- 森林環境譲与税やふくしま森林再生事業、広葉樹林再生事業を活用し、森林環境の保全・整備に取り組んでいきます。
- 有害鳥獣被害対策や外来害虫対策に取り組んでいきます。



結支援事業

関連する計画

- 農業水路等長寿命化・防災減災事業 長寿命化・防災減災計画
- 白河市多面的機能支払交付金事業実施計画
- 白河市中山間直接支払交付金事業実施計画
- 白河市森林再生計画
- 白河市鳥獣被害防止計画
- 公共施設個別施設計画
- 白河市里山・広葉樹林再生プラン
- 公共施設等総合管理計画

(6)

建設部の目標

安全で安心できる 「歴史と文化が息づくまち」にします

社会資本の整備や自然災害対策の推進、長寿命化計画に基づく老朽化施設の更新を行い、安全で安心できる居住環境を整えます。

また、市の歴史や伝統文化を守りながら、まち中居住や適切な土地利用の誘導、空き家・空き店舗対策の推進、低未利用地や歴史的建造物など既存ストックを活用した住みやすい白河を市民と共に築きます。

【実現に向けて】

道路河川課

- 道路・河川を適切に管理し、安全・安心な居住環境を目指します。

建築住宅課

- 安全・安心で快適に暮らせる住環境の整備を目指します。

まちづくり推進課

- 歴史や伝統・文化が息づく魅力ある居住空間を形成します。

都市計画課

- 安全で住みやすい魅力のあるまちづくりを推進します。

文化財課

- 市の歴史や伝統文化を守りながら適切にいかすことで、郷土愛の醸成を目指します。



道路河川課

めざすまちの姿

道路・河川を適切に管理し、
安全・安心な居住環境を目指します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

本市が管理する道路は、延長が 1,013 k m、その中に橋梁が 403 橋、トンネルが 2 箇所あり、これらの社会資本を日々安全な状態で維持する必要があります。このことから、定期的な点検による管理修繕計画の更新と管理修繕計画に基づく補修を行います。

また、気候変動の影響等により激甚な災害が頻発しています。激甚化・頻発化する自然災害等から市民の命と暮らしを守り、安全で安心して生活できる居住環境を実現するため、道路・河川の防災減災対策を推進します。

さらに、全国的に問題となっている環境負荷の低減、災害時における交通機能の維持、国民の健康増進など、新たな課題に対応するための取組みを進めていく必要があります。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 道路内に点在する橋梁については 403 橋あり、高度経済成長時代に建設された橋梁が多く補修が必要な状況となっております。補修にあたっては、損傷が進行する前に計画的に手当てをする「予防保全型」と、損傷状況を見定めて対策を行う「事後保全型」を組み合わせた管理手法「組み合わせ型」を採用することにより、長期的な維持管理コストの縮減と安全性の更なる向上を目指す必要があります。
- 令和元年度の台風 19 号災害では、中小河川において、甚大な被害が発生したため、護岸の強化を行う必要があります。
- 市街地における老朽化した道路側溝は、道路や宅地の冠水を引き起こす恐れがあり、腐食した縞鋼板蓋は通行障害や騒音発生など生活環境悪化の原因となっているため、道路側溝の改修を行う必要があります。
- 経年劣化で舗装にひび割れやわだち掘れが発生し、走行性の低下や振動など生活環境に悪影響を及ぼしているため、舗装補修を行う必要があります。
- 市内の道路は、歩車道空間に段差が存在したり、狭あいだったりなどするため、安全で快適な自転車利用空間を確保する必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

管理する社会資本の長寿命化計画の策定

- 社会資本整備計画に基づき長期的な視点により道路整備に取り組みます。
- 橋梁長寿命化修繕計画に基づき長期的な視点により橋梁の長寿命化に取り組みます。
- トンネル長寿命化修繕計画に基づき長期的な視点によりトンネルの長寿命化に取り組みます。
- 道路施設総合維持管理計画に基づき長期的な視点により道路整備に取り組みます。

防災・減災対策の実施

- 緊急自然災害防止対策事業（河川）により、準用・普通河川の浸食による崩壊の恐れがある護岸を補強します。
- 緊急浚渫推進事業により、河道内に堆積した土砂や繁茂した樹木等の撤去を行い河川の流下断面を確保します。
- 緊急自然災害防止対策事業（道路防災）により、老朽化した道路側溝の改修を行います。
- 公共施設等適正管理推進事業により、舗装補修を行います。

自転車走行空間のネットワーク化と整備

- 国・県の推進計画や関連する各種計画を踏まえ、本市における自転車活用に関する総合的な計画として白河市自転車活用推進計画を策定し、自転車走行空間の整備を行います。

関連する計画

- 白河市社会資本整備計画
- 白河市橋梁長寿命化修繕計画
- 白河市トンネル長寿命化修繕計画
- 白河市道路施設総合維持管理計画
- 白河市緊急自然災害防止対策事業計画(河川)
- 白河市緊急浚渫推進事業計画(河川)
- 白河市緊急自然災害防止対策事業計画(道路防災)
- 公共施設等総合管理計画
- 公共施設個別施設計画
- 白河市都市計画マスタープラン
- 白河市みらい創造総合戦略
- 白河市観光振興計画
- 第 2 次白河市地域福祉計画
- 第 2 次いきいき健康しらかわ
- 生涯学習推進計画
- 第 3 次白河市環境基本計画
- しらかわ地域定住自立圏第 2 期共生ビジョン

建築住宅課

めざすまちの姿

安全・安心で快適に暮らせる 住環境の整備を目指します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

本市では、急激な人口減少や少子高齢化、空き家の増加、頻発する自然災害など、住まいを取り巻く社会情勢が目まぐるしく変化しており、様々な住まいに対するニーズへの対応が求められることから、安全・安心で快適に暮らせる住環境づくりに向けた取組みを一層進めていく必要があります。

このことから、公共建築物の整備や民間住宅への支援などを通じて、市民の日常生活の基盤である住環境の向上を図り、良好な都市や街並みを形成するとともに、環境負荷に配慮したゼロカーボンシティの実現を目指しながら、安全・安心に生活できるまちづくりに努めたいと考えています。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 近年、住生活を取り巻く課題が複雑化していることから、安全で安心した生活ができる支援策が必要です。
- 震災以降、旧耐震基準で建築された戸建住宅等の安全性の確保が求められていることから、安全性の確保のための支援が必要です。
- 空き家等は増加傾向にあり、適切な管理が行われずに防災、衛生及び環境面などにおいて様々な問題が生じていることから、空き家等の適正な管理が必要です。
- 市営住宅は老朽化が進み、維持管理が大きな課題となっています。また、人口減少による市営住宅の適正戸数の見直しを進めていく必要があります。
- 高度経済成長時代に建設された市有建築物が建物としての寿命を迎えつつあり、長寿命化するための改修・改築を行う必要があります。
- ゼロカーボンシティを実現するため、今後新築する市有建築物について、環境負荷を低減した ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）化^{※1}を目指す必要があります。



◆ 課題を解決するための取組み

安心して快適に生活できる住環境づくり

- 旧耐震基準で建築された木造住宅や、建築基準を満たしていないブロック塀等の耐震化を支援し、災害に強いまちづくりを推進していきます。
- 保安上危険となるおそれのある空き家については、「特定空家等^{※2}」として認定し、助言・指導等により、適正な管理を促していきます。

住宅ストック等の適正化

- 住宅の省エネルギー化や脱炭素社会に向けた取組みを推奨し、住宅ストックの効果的・魅力的な改修等を支援していきます。
- 市営住宅については、白河市営住宅長寿命化計画に基づく長期的な視点による改善と居住水準の向上を図り、住宅セーフティネットとしての機能維持に取り組んでいきます。
- 低所得者や高齢者などの要配慮世帯に対しては、福祉部局と連携し安定した住宅の供給に取り組んでいきます。
- 市営住宅の空き住戸については、時代の変化にあわせた住宅政策に活用し、地域の活性化を図っていきます。
- 老朽化した市営住宅については、地域の需要を踏まえつつ、統廃合等による集約化を段階的に進め、入居者が安全で安心に生活できるよう良好な住環境整備に取り組んでいきます。
- 建物の長寿命化対策に役立つ新しい技術の情報収集に努め、改修工事での採用を検討します。
- 建築物に対するエネルギー政策の情報収集に努め、市有建築物の ZEB 化への取組みを進めていきます。

関連する計画

- 白河市耐震改修促進計画
- 白河市営住宅長寿命化計画
- 公共施設等総合管理計画
- 白河市空家等対策計画
- 公共施設個別施設計画

用語解説

※1 ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）化：建物で消費する年間の一次エネルギーの収支ゼロを目指した建物のこと。

※2 特定空家等：空家のうち、放置することが不適切な状態にある建物（その敷地を含む）のこと。



都市計画課

めざすまちの姿

安全で住みやすい魅力のあるまちづくりを推進します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

本市は、田園風景が広がる豊かな自然環境のもと、城下町の歴史や文化が薫る特色ある街並みを形成しています。駅周辺には市民の生活を支える医療機関や商業施設、公共施設、公共交通などが数多く集積し、利便性が高いものの、将来利用者の減少によって機能の維持ができなくなることにより生活が不便になることや、空き地や空き家・空き店舗の増加によって住環境が悪化することなどが懸念されています。

このことから、都市環境の充実や景観まちづくりを通じて、まちなかに「住みたい」「事業を行ってみたい」「もっと住みやすいまちにしたい」と思う人が増えてほしいと考えています。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 市民が安心して暮らしていくためには、歩いて行ける範囲に医療機関や商業施設、公共施設があることが望ましいことから、これらを維持するため、その周辺に居住を誘導し、施設の利用者を増やす必要があります。
- 居住を誘導するためには、そこに住む魅力を高める必要があることから、道路や歩道、公園などの整備を進め住環境の向上を図るとともに、本市の特色である歴史や文化、景観をいかし、若者や高齢者、子育て世代をはじめ多くの人々が住みたいと思えるまちをつくりあげる必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

立地適正化計画の推進

- 市民生活を支える施設や公共交通の利用者を増やし、それらを維持するため、低未利用土地の利活用促進や建築規制等の適正化を図るとともに、城下町の歴史や文化、景観の魅力向上の取組みと連携することにより、市街地の人口密度を高めます。
- 用途地域等の建築規制や開発許可の適正化を図り、新たな居住やビジネスの創出につなげます。

都市計画道路や公園の整備による都市環境の充実

- 若者や高齢者、子育て世代が安全で住みやすい魅力あるまちづくりを推進するため、都市計画道路の見直しや住民のニーズにあった公園の検討・整備を進めるとともに、公園の適切な管理により子育て世代をはじめ多くの人々が住みたいと思える住環境の維持・向上を図ります。

良好な景観の形成による魅力あるまちづくりの推進

- 住民の生活に潤いと安らぎを与え、地域への誇りや愛着を育むとともに、来訪者が本市の歴史や伝統文化、自然を体感できる美しい「ふるさと白河」を築くため、景観に関する情報の積極的な発信や、景観まちづくり活動団体の育成を通じた住民参加による景観形成の取組みを推進します。
- 質の高い屋外広告物の表示等について適切に規制・誘導を行うとともに、未申請広告物や違反広告物を解消することにより、良好な景観の維持を図ります。



全線開通した国道294号白河バイパス（小峰大橋から小峰城の石垣を望む）

関連する計画

- 白河市都市計画マスタープラン
- 白河市立地適正化計画
- 白河市景観計画
- 白河市地域公共交通網形成計画
- 白河市歴史的風致維持向上計画
- 公共施設等総合管理計画
- 公共施設個別施設計画
- 史跡名勝南湖公園第2次保存管理計画
- 史跡名勝南湖公園整備基本計画
- 白河市観光振興計画

文化財課

めざすまちの姿

市の歴史や伝統文化を守りながら適切にいかすことで、郷土愛の醸成を目指します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

本市には、歴史や風土の中で育まれてきた史跡や伝統芸能、天然記念物などをはじめとした数多くの文化財が残されており、まちに品格と魅力を与えています。

しかしながら、東日本大震災や頻発化する自然災害による文化財への被害や、全国的な人口減少・少子高齢化の進行に端を発した後継者減少による文化財の散逸、民俗行事の存続危機など、本市の歴史や伝統文化を取り巻く環境は厳しい状況といえます。

このことから、本市の歴史や文化を後世に伝えていくために、文化財を様々な手段を講じて保存していくとともに、地域のために活用することで、地域に息づく様々な文化財や先人の守り伝えてきた郷土の歴史・伝統文化に誇りや愛着をもってほしいと考えています。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 市内各所に所在する文化財は、市や地域のシンボルとして適切に保存していくと同時に、市民が文化財について学び、理解する機会を設けるなどの環境を整えていく必要があります。
- 有形無形の文化財を良好な状態で後世に伝えていくため、現況の調査を行いながら保護措置及び支援を図る必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

文化財の保護

- 文化財の保存と活用のバランスを図りながら、後世に良好な状態で伝えるための措置を講じます。特に、常に公開され見学がしやすい史跡の中でも、多くの人が訪れる場所については、園路や景観の整備、案内板などの設置、パンフレットの作成などにより、訪れた人々がその魅力を身近に感じることができるようになります。
- 埋蔵文化財包蔵地内における開発行為に対しては、今後も適切な指導や助言を行い、必要に応じて発掘調査等を実施し、埋蔵文化財の保護に努めます。

- 「白河市文化財保存活用地域計画」に基づき、市内全域を対象に、未指定文化財の調査を進めるとともに、必要に応じて指定文化財として指定するなど保護に努めます。

無形民俗文化財への支援・協力

- 少子高齢化により大きく影響を受けている無形民俗文化財に対し、行事継続のための活動支援を行います。

調査成果等による文化財の活用

- 調査を行った資料は、必要に応じて一定のテーマのもと企画展を開催するなど、市民へ白河の様々な歴史文化について紹介する機会を創出します。
- 調査を行った成果を、市民が分かりやすく、かつ研究者が活用できる報告書などとして発行し、広く公開します。



小峰城跡園路整備状況（帯曲輪）

関連する計画

- 史跡小峰城跡保存管理計画
- 史跡小峰城跡整備基本計画
- 史跡名勝南湖公園第2次保存管理計画
- 史跡名勝南湖公園整備基本計画
- 史跡白河舟田・本沼遺跡群、白河官衙遺跡群保存活用計画
- 白河市文化財保存活用地域計画
- 公共施設等総合管理計画
- 公共施設個別施設計画

(7)

水道部の目標

健全な水循環・水環境を 未来につなぎます

山や川などの水源から得られた「みず」は、安全で安心な飲み水となり、市民の生活を支えています。使用された水は、家庭から接続された下水道を経て衛生的な処理の後、川から海へと戻っていきます。

上下水道の施設を良好な状態で維持し、生活を支える重要なライフラインを守り、いつも、いつまでも絶えることのない「おいしい水道水」を提供し、「きれいな水」として自然に戻すことができる環境づくりを推進することで、健全な「水循環」「水環境」を未来へつなげることを目指します。

【実現に向けて】

水道課

●いつでもどこでも安全で安心な水が「飲める」「使える」水道事業を維持します。

下水道課

●衛生的で快適な環境で生活できるまちを目指します。



水道課

めざすまちの姿

いつでもどこでも安全で安心な水が
「飲める」「使える」水道事業を維持します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

全国的に加速化する人口減少により、本市水道事業において水需要の減少に伴う経営環境の悪化が避けられないと予測されています。

また、水道施設の老朽化により漏水事故が増加し、さらには近年頻発化・激甚化する自然災害による大規模な断水の恐れから、計画的な更新や災害に備えた強靱な施設の構築が求められています。

このことから、時代・環境の変化に対応しながら、生活を支える重要なライフラインを守るため、水道事業の基盤強化を図り「安全で安心な水道水」の供給を維持していきます。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 給水人口の減少により料金収入が減少する中、健全で安定した水道事業の運営を維持するためには、適正な水道料金による収入の確保が必要です。
- 水道事業は法に基づく水質基準を遵守するとともに、その水質情報を提供し利用者の安心を得ることは非常に重要であり、適切な情報を伝える体制強化の取り組みが必要です。
- 水道施設の老朽化による漏水事故の発生頻度が高まっているため、水道施設の状況を的確に把握し、長期的視点で計画的な水道施設の更新を進めていくことが必要です。
- 水道事業の健全な経営を確保するため、運営に必要な人材の確保及び技術の維持・継承並びに、危機管理体制の充実が必要です。

◆ 課題を解決するための取り組み

健全な水道経営の維持

- 事業費の平準化や事業の再構築によるコスト削減などにより、健全な財政基盤を確立し、収益の改善を図ります。
- 料金収入による安定した事業運営がなされるよう、適正な水道料金のあり方に向けた検討と検証を進めます。

水道水の安全性の確保

- より安全な水を供給するため、水源から給水栓（蛇口）までの各段階で、水質への危害評価と危機管理を行う取り組みを進めていきます。
- 利用者の安心を得られるよう、水質情報等の適切な広報・周知体制の強化に取り組みます。

強靱な水道の構築

- 施設の保全管理及び長寿命化対策に取り組みます。
- 計画的な施設更新・整備を進めるとともに、施設の再構築に取り組みます。
- 国の「国土強靱化対策」と連携し、水道施設の防災・減災対策を進めていきます。

人材の確保と育成

- 安定した水道サービスを維持するため、専門性を有する人材の育成とともに技術継承の取り組みを進めます。
- 水道事業運営に必要な人材の確保、技術水準の向上を図るため、実態に応じた官民連携などの活用を模索していきます。



老朽管更新

関連する計画

- 白河市水道事業経営戦略
- 白河市水道事業整備基本計画
- 管路更新計画
- 白河市水道事業第5次拡張計画



下水道課

めざすまちの姿

衛生的で快適な環境で生活できる
まちを目指します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

下水道は、公衆衛生の確保や水質保全といった私たちの身近な生活環境の改善を図るうえで必要不可欠なインフラです。下水道を整備することは、身の回りの小川や水路をきれいにすることにつながり、その流れは阿武隈川から海へと続きます。私たち自身の快適な生活はすべての人の暮らしに関わっており、阿武隈川の最上流に暮らす市民として水質保全に高い意識をもつ人が増えてほしいと考えています。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 下水道施設は概ね整備されましたが、今後は多くの施設が老朽化することから、計画的に改築更新を進めていく必要があります。
- 本市の下水道事業を健全に運営していくため、使用料金を適正な水準とする必要があります。
- 下水道施設を維持管理していくため、施設の統廃合を進め維持管理費の削減を図る必要があります。
- 下水道施設の整備が完了しても、接続率が低いと効果が表れないことから、下水道接続への啓発を実施し接続率を高くする必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

下水道整備の推進

- 下水道の整備・更新を進めるとともに、下水道の区域外の地域では、住民の要望により市で設置・維持管理を行う「公共浄化槽等整備推進事業（市設置型）」を実施していきます。

下水道施設の更新と統廃合

- 下水道施設の改築更新については、国の補助制度を活用し計画的に進めていきます。
- 「汚水処理事業の広域化・共同化計画」に基づき、計画的に農業集落排水施設の公共下水道への接続など施設の統廃合を進め、維持管理費の削減を図ります。

下水道使用料金の見直し

- 下水道事業の経営環境が厳しくなることが予想されるため、将来の経営状況を見据えた下水道使用料の適正なあり方について検討していきます。

下水道接続への啓発

- 未接続の家屋や事業所などに対し、啓発活動を積極的に行い下水道への接続を促していきます。



デザインマンホール

関連する計画

- 社会資本総合整備計画
- 白河市下水道ストックマネジメント計画
- 白河地区農業集落排水事業最適整備構想
- 白河市循環型社会形成推進地域計画
- 白河市下水道事業経営戦略
- 公共施設等総合管理計画
- 公共施設個別施設計画

(8)

教育委員会の目標

「未来を切り拓く人間力」を 育みます

未来を担う子どもたちのために教育環境を整え、生きる力を育み、郷土を愛し、自らの手で未来を切り拓く人材を育てていきます。

また、図書館では、ニーズを把握した図書の充実と、誰もが快適に利用できる環境を整えていきます。

【実現に向けて】

教育総務課

- 教育行政の総合的な企画・調整や、学習環境の充実を図ることにより、学校や地域の中で、安心して教育を受けられるまちを目指します。

学校教育課

- 生きる力を育む教育の充実を目指します。

健康給食推進室

- 学校給食や食育を通し、子どもたちの心と身体の健やかな成長を支えます。

図書館

- 誰もが快適に利用でき、市民の知と交流の拠点となる図書館を目指します。

教育総務課

めざすまちの姿

教育行政の総合的な企画・調整や、学習環境の充実を図ることにより、学校や地域の中で、安心して教育を受けられるまちを目指します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

教育行政の総合的な企画・調整を行うほか、子どもたちが経済的な理由により進学を諦めることのないよう奨学金制度の周知徹底を図ることによってその活用を進めるとともに、機能的で快適な教育施設を提供することなどにより、安心して教育を受けられる環境を整えたいと考えています。

また、学校と地域住民が協力しながら、子どもたちが体験的な学習を深める環境を整えるとともに、世代間の交流機会を通して地域のつながりや絆を深めてほしいと考えています。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 専修学校や大学に進学する場合、授業料や一人暮らしの生活費など多額の費用がかかることから、経済的理由で、進学をあきらめることのないよう支援が必要です。
- 奨学金の返還は、卒業した奨学生の経済的負担となるため、支援が必要です。
- 子どもたちが快適に教育を受けられるようにするためには、教育施設の老朽化対策や長寿命化を図る必要があります。
- 学校施設が常に健全な状態を維持できるよう、適切に維持管理を行っていくことが必要です。
- 少子高齢化や人口減少、また、核家族化やライフスタイルの変化を背景に、地域のつながりが希薄になり、地域社会や家庭の教育力・養育機能の低下がみられるため、地域が一体となり、子どもたちに様々な体験の場を提供し、自ら学ぶ力を育成する必要があります。
- 放課後児童クラブにおいて待機児童が発生しているため、解消する取り組みが必要です。

◆ 課題を解決するための取り組み

奨学金の貸与

- 現行の奨学資金や入学一時金など就学支援制度の周知徹底を図り活用を進めます。
- 経済的な支援制度のあり方について調査・研究を進めます。



地域と学校が一体となった学びの促進

- 学校や地域の連携を推進し、子どもたちが地域について知り、地域住民とつながることができる環境を整えていきます。
- 子どもたちを支えるだけでなく、地域住民の社会参画・生きがいに資するとともに、活動を通じて地域のつながり・絆を強化し、地域の活性化を促進していきます。
- 子どもの豊かな人格形成に寄与するため、音楽や運動、自然との触れ合い、その他学習など、多様な学びの機会の創出を図ります。

放課後児童クラブの充実

- 支援の質の向上を図るほか、学校施設の有効活用や民間放課後児童クラブとの連携などにより、待機児童の解消に取り組みます。

学校施設の改築・改修

- 教育環境の充実を図るため、計画的な学校施設の改修や改築、長寿命化などに取り組むとともに、ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）を実現するため、環境や経済性に配慮した施設整備のあり方についても調査・研究を進めます。

学校施設の維持管理

- 学校施設が、常に健全な状態を維持できるよう、適切に維持管理を行い、安全性・機能性の確保に努めます。



白河第三小学校床改修工事施工後



大信小屋上防水施工後



関連する
計画

● 公共施設等総合管理計画

● 公共施設個別施設計画



学校教育課

めざすまちの姿

生きる力を育む教育の充実を目指します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

社会構造の急速な変革が見込まれる中、変化の激しい予測困難な時代になっても未来を担う子どもたちには、自分の道を切り拓きたくましく歩んで行く生きる力を培ってほしいと考えています。そのために、確かな学力と豊かな心と、健康な体をバランス良く育んでいくことが重要であると考えています。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を図る必要があります。
- 基礎的な知識・技能を習得し、思考力、判断力、表現力のさらなる向上を図る必要があります。
- ICT 利活用のための計画的な基盤整備と、授業の質的改善を推進していく必要があります。
- 思いやりの心など社会性や協調性を育む道徳教育・人権教育の充実を図る必要があります。
- 各種調査結果に基づき、体力と運動能力の向上を図る必要があります。
- 郷土愛を育むため、郷土の資源をいかし歴史や伝統文化を学ぶ機会をさらに充実する必要があります。
- 児童生徒の障がいの状況に応じた指導が行えるよう、特別支援教育の充実を図る必要があります。
- 幼小連携し、幼児期の教育と児童期の教育を円滑に接続する必要があります。
- 今後さらに進む少子化に対応した教育環境を整備していく必要があります。
- 生徒数の減少等により、部活動の休部や廃部、大会に出場できなくなるなどの影響があることから、持続可能な体制を整備する必要があります。
- 児童生徒の学校生活に係る就学の負担軽減のため、支援体制をさらに充実する必要があります。
- 教職員が子どもと向き合う時間を確保し、学びの充実を実現し、教職員がやりがいと達成感を持って健康に働くことができるよう、教職員の業務量の適正化を推進する必要があります。

◆ 課題を解決するための取り組み

確かな学力の向上

- 授業を改善し、基礎・基本の定着を徹底し活用力等の向上を図ります。
- 家庭学習や規則正しい生活習慣を身につけるために家庭との連携を推進します。
- 教育活動全体を通した読書力を基盤とした学力向上を図ります。
- 学校司書の活用や図書・教材等の整備により、学校図書館機能を強化し読書習慣を確立します。
- ICT 活用などによる学びの変革に対応した授業スタイルを進めます。
- ALT（外国語指導助手）※ 1 を活用し英語によるコミュニケーション能力を育成します。

豊かな心の育成

- いじめや不登校の防止に向け、子どもの心に寄り添った生徒指導を推進します。
- 児童生徒の居場所となる学級づくりを推進します。
- スクールカウンセラーを活用し、教育相談体制の充実を図ります。
- 「特別の教科 道徳」の充実に向けた指導方法を工夫し道徳・人権教育を推進します。

健やかな体の育成

- 体力・運動能力テストなどの結果をもとに、児童生徒の発達段階に応じた指導を行います。
- コーディネーショントレーニング※ 2 の普及を推進します。
- 健康で安全な生活ができるよう教育活動全体を通して取り組みます。
- 食育の全体計画、年間指導計画に基づき、食育の充実と推進を図ります。

郷土の歴史教育の充実

- 教育活動全体を通して郷土愛を育む教育を推進します。
- 学校と地域の連携・協働を図り、地域の資源を活用した探究的な学びを推進します。
- 児童生徒自ら郷土の良さを発信する活動を推進します。

特別支援教育の充実

- 児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導を充実させます。
- 関係機関との積極的な連携により、多面的な指導や支援を図ります。

幼児教育の充実

- 幼児の特性や発達段階に応じた教育により、一人ひとりの望ましい発達を促します。
- 家庭・地域・小学校等との連携をいかした取組みを推進します。

魅力ある教育環境の整備

- 少子化に伴う教育上の課題を分析し、必要な教育条件を改善することでより良い学習環境の整備を図ります。
- 教職員の心身の健康確保と教育の質の維持・向上を図るため、教職員の時間外在校等時間の課題を分析し、国や県の動向を注視しながら、業務量の適正化に繋がる取組みの推進に努めます。
- 就学に必要な経済的負担を軽減するための支援を充実させていきます。

部活動の地域展開

- 少子化が進む中であっても子どもたちが継続して多様なスポーツや文化芸術活動に親しむ機会を創出し、併せて、教員の多忙化の解消を図るため、学校や地域と協力し、学校部活動の地域展開の推進に努めます。

用語解説

※ 1 ALT（外国語指導助手）：外国語が母語である外国語指導助手のこと。

※ 2 コーディネーショントレーニング：運動による身体への刺激を通して、学習能力を高め、知性と感性の向上を図ることを目的としたトレーニングのこと。



健康給食推進室

めざすまちの姿

学校給食や食育を通し、子どもたちの心と身体の健やかな成長を支えます。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

近年、食をめぐる状況は刻々と変化しており、生涯の健康づくりにおいては、乳幼児期からの生活習慣病対策など各年代の特性を踏まえた対応が求められています。

成長期の子どもたちにおいては、安全・安心かつ栄養バランスのとれた学校給食や食育を通して、食に関する正しい知識を習得するとともに、地元農畜産物に愛着や誇りを持ち、生涯にわたり健全な食生活を送れるようになって欲しいと考えています。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 安全安心な給食を提供するためには、市内11箇所ある給食施設の設備について、計画的な整備を行っていく必要があります。
- 健全な食生活を実践することができる人を育てるためには、学校における食育の推進が必要です。
- 子どもたちが地元農畜産物に関心を持つためには、学校給食における地元食材の積極的な活用に取り組む必要があります。
- 栄養バランスの取れた給食をより安定的に提供するため、学校栄養職員の計画的な配置が重要です。

◆ 課題を解決するための取組み

施設整備更新計画に基づく機器更新の実施

- 学校給食衛生管理基準に基づいた「安全・安心な給食」を提供するため、各給食施設の設備の取替や修繕を実施します。

学校における食育の推進

- 行事食や郷土食、食育メニューなどを取り入れた多彩な給食を提供します。

- 地場産物活用状況調査の実施により現状を把握し、給食における地元農畜産物の活用について、積極的に取り組みます。
- 各学校において、栄養教諭等による年代に応じた適切な食育指導を実施します。

学校給食運営を担う栄養士の確保

- 学校給食単独実施学校における学校栄養職員の計画的な適正配置に努めます。



学校給食の風景

関連する計画

- 第3次白河市食育推進計画
- 公共施設等総合管理計画
- 公共施設個別施設計画



図書館

めざすまちの姿

誰もが快適に利用でき、市民の知と交流の拠点となる図書館を目指します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

図書館は、「基本的人権のひとつとして知る自由をもつ国民に、資料と施設を提供することをもっとも重要な任務」としています。SDGsの目標においても、「質の高い教育をみんなに」が掲げられており、こどもから高齢者まで、世代や性別、障がいの有無に関わらず、誰もが快適に利用できる図書館サービスを提供し、市民が豊かな生活を送るためのお手伝いや、生涯学習の推進に寄与していきたいと考えています。

また、白河市立図書館～りぶらん～は白河駅前の好立地となっていることから、少子高齢化による人口減少や、商業施設の衰退が懸念される中心市街地の活性化につなげていくため、あらゆる人々が訪れる交流の拠点となり、交流人口の増加に寄与していく必要があります。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- こどもや高齢者、障がい者など、図書館に来ることや読書することが困難な市民もいることから、誰もが図書館サービスを受けられるようにする必要があります。
- 市民の要望が多様化し、蔵書の充実や更新、資料や情報の取り扱いに関する専門知識が求められることから、専門職である司書を拡充する必要があります。
- デジタル化による生活習慣の変化により、10～20代の若者世代の図書館利用が、他の年代に比べ少ないことから、知の拠点としての図書館の活用方法をPRする必要があります。
- 地域交流会議室の利用がピーク時を下回っていることから、利用機会や利用者の増加に向けて積極的な活用を図っていく必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

資料の充実と更新

- 多様なニーズに応えられるよう、市民のリクエストや要望を選書にいかしていきます。
- 一般図書に限らず、視聴覚資料や複製絵画、ボードゲーム、大活字本やLLブック、点字絵本や布絵本、朗読CDや録音図書なども充実させていきます。

- 白河に関する地域資料を積極的に収集し、保存を図るとともに、デジタルアーカイブ化^{※1}を推進します。
- 知の拠点として市民の幅広い探求心を支えるため、常に新しい資料の充実と保存、情報の収集を心がけるとともに、経年劣化や内容の陳腐化により活用しなくなった資料の適切な除籍と更新を図っていきます。

図書館サービスの向上

- 多様化する市民の要望に応えるため、司書の拡充やスキルアップを図ります。
- 市内4館の全域サービス^{※2}をより利用してもらえるよう、普及啓発を行い、市民の利便性を向上させるとともに、各地域の図書館利用の活性化を図ります。
- 関係機関と連携し、地域、児童クラブや学校図書館等へ、資料や情報の提供を行います。
- 移動図書館車を活用して、高齢者サロンなどを訪問し、来館が困難な市民の読書活動を支援するとともに、イベント会場などを訪問して図書館の利用を広くPRしていきます。
- 資料の貸出・返却の効率性と確実性を高めるため、自動貸出・返却システムの適切な運用と更新を行っていきます。
- デジタル化による生活習慣の変化に対応するために、ウェブサイトからの予約やリクエストサービスも適切に運用・更新するとともに、SNS等を活用し、図書館サービスを広くPRしていきます。
- 障がいの有無に関わらず誰もが読書に親しめるように工夫された資料や、読書支援具を一か所に集めた「りんごのたな」を開設し、読書バリアフリーを推進します。
- 日本語を母国語としない市民に向けた多言語版利用案内や資料の提供など、多文化サービスを充実させていきます。
- 利用者の安全性や利便性を高め、誰もが快適に図書館を利用できるよう、図書館施設や設備の適切な維持管理と更新を行っていきます。

地域交流エリアの活用

- おはなし会や映画上映会、図書館講座や講演会など、多彩な図書館行事を開催していきます。
- 多くの人々が情報提供や活動の場として利用し、市内外のあらゆる世代の人々が相互に交流できる場としていくため、地域交流会議室の利用の拡大に向けてPRを行うとともに、地域交流エリア予約システムを活用し、利用手続きの効率化・簡略化を図っていきます。

関連する計画

- 白河市子ども読書活動推進計画
- 公共施設等総合管理計画
- 公共施設個別施設計画

用語解説

※1 デジタルアーカイブ：資料を電子データで管理し、保存と利活用につなげる仕組みのこと。

※2 全域サービス：市内4館をネットワークで結び、どの館でも貸出・返却ができるサービスのこと。

(9)

各庁舎の目標

表郷庁舎

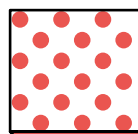
- 住民・地域団体・行政が手を取り合い、共に歩む表郷を目指します。

大信庁舎

- 暮らしも、遊びも、まるっと楽しい大信を目指します。

東庁舎

- 地域資源をいかした、東地域内外の「交流」が盛んなまちにします。



表郷庁舎

めざすまちの姿

住民・地域団体・行政が手を取り合い、共に歩む表郷を目指します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

表郷地域は、少子高齢化や若年層の人口流出により、急速に人口減少が進み、令和4年4月に過疎指定を受けました。人口減少の影響により、産業の衰退や地域コミュニティ機能の低下などが懸念されています。

このことから、表郷地域の歴史、文化、自然、受け継がれてきた農業や特産品、交通の利便性や地理的優位性などをいかし、住民、地域団体、行政が共に課題に向き合い、共に歩みながら、地域に住む人々や子どもたちが、未来に希望が持てるまちづくりを進めていきます。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 災害に備えた体制づくりや防犯対策、医療の充実等、安全・安心に暮らし続けることができるまちづくりを進める必要があります。
- 教育や子育て環境の充実に向けた取組を行い、若い世代を地域で支え合いながら子育てを応援するまちを目指す必要があります。
- 自然や文化、歴史などの足元の資源に加え、地域の特産物等の魅力を発信し、交流人口の創出・拡大に向けた取組を進める必要があります。
- 都市機能が集約し、持続可能な地域公共交通が確保されたコンパクトで魅力ある住みやすいまちづくりを進める必要があります。
- 農業をはじめとする各種産業の担い手の確保・育成及び持続可能な経営基盤強化の取組等により、活力ある産業づくりを進める必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

安全・安心の確保

- 住民一人ひとりの防災や防犯に対する意識を高めるとともに、自助、共助の意識を持ち、町内会などの自主防災組織や消防団、行政との連携を強化する体制づくりを推進します。また、防災や防犯に必要な施設等の整備についても検討していきます。
- 住民誰もが安心して暮らしていける医療体制の充実等を図っていきます。

- 地域コミュニティについて、住民一人ひとりが支え合い、助け合いの心を持つとともに、地域で取り組むべき課題や備えるべき機能、果たすべき役割などを検討し、必要な体制の確立に向けた取組を行っています。
- 空き家対策として、空き家を活用する取組を行い、空き家が放置されない環境づくりを推進します。

教育・子育ての充実

- 子育て世代の定住、移住を促進するために、子育て世代からのニーズが多い教育環境、防犯対策、交通安全対策、医療体制等の施策を検討していきます。
- 若い人や子育て世代の声を聞きながら、子育てをみんなで支える環境づくりを進めます。

交流人口の創出

- 表郷地域の歴史・文化・豊かな自然環境などの地域資源に対し、住民自身が愛着を持ち次世代へつないでいくとともに、これらの資源を有効活用し、表郷地域の魅力を効果的に発信することで交流・観光人口の拡大を図っていきます。
- 新たな地域資源の掘り起こしや手つかずの地域資源の整備等についても検討していきます。

都市基盤の整備

- 利便性の高い暮らしやすい地域にするため、公共施設や金融機関、商業施設、医療機関などの都市機能を集約する土地利用を図ります。
- 道路等の社会インフラの維持・向上に努め、生活基盤の充実を図ります。
- 高齢化の進展に伴い、交通弱者の増加が予測されるため、公共交通の充実及び新しい公共交通システムの検討を進めるとともに、まちづくりと一体となった公共交通体系の整備を図ります。

地域経済の活性化

- 交通の利便性や地理的優位性をいかした企業誘致や多様な産業が持続的に発展するよう、産業基盤の強化や産業を支える人材の育成等に努めます。
- 歴史・文化・自然などの地域資源をいかし、表郷地域の魅力発信や交流・観光人口の拡大を図ります。

関連する計画

- 白河市過疎地域持続的発展計画
- 表郷地域振興計画

大信庁舎

めざすまちの姿

暮らしも、遊びも、まるっと楽しい大信を目指します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

高齢化が進む一方で、出生数の減少、若年層の流出など、将来の地域を支える若者の人口減少が進んでいます。

このことから、大信地域のすべての世代の暮らしやすさを高めるとともに、雄大な自然、キャンプ場やゴルフ場など地域固有の資源を十分にいかしながら、住んでいて楽しい、愛着と誇りに満ちた一人ひとりが主役の地域づくりを推進したいと考えています。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 大信地域は、山林・農地が面積の8割超を占めます。この自然豊かな地域でのゆったりとした暮らしや農業の体験などを通し、地域の魅力を発信していく必要があります。
- キャンプ場やゴルフ場といったアクティビティ施設を県内外に広くPRし、交流人口の増加を推進していく必要があります。
- 暮らしやすさを高めるため、道路・水路整備、除雪や子育て支援など生活に密着した対策を推進するほか、高齢者等の移動手段を確保する必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

大信ならではの若者・女性の定住促進

- 地方移住に関心を寄せている人を対象に、首都圏との近接性や、豊かな自然環境での暮らしを体験してもらうため、地域の空き家を活用して、暮らし体験住宅を整備し、「転職なき移住」を推進します。
- 空き家バンクの対象を住宅専用から、事業拠点、農業拠点としての活用も可能となるよう拡大し、利用を促進していきます。
- 農業の担い手不足が見込まれることから、大信地域への就農希望者の呼び込みや経営継承の推進、農業に関する交流人口の増加に取り組み、地域農業の持続と新たな担い手による発展に向けて支援していきます。

地域資源のフル活用

- 地域内各所に大信の主要拠点を示すサイン表示を設置し、円滑に人の流れを誘導するなど、

来訪者の期待感を高めるための取組みを進めていきます。

- 仕事と休暇の両方の充実を目指し、ゴルフ場においてWi-Fi環境や会議スペースの整備を進め、ゴルフアーケーション^{※1}を推進していきます。
- 小中学生向けのゴルフ体験事業や、ゴルフ場がクローズとなる期間を活用した冬を楽しむアクティビティの実施を検討し、交流人口の増加、地域活性化への取組みを進めていきます。
- オーナー制や農家民泊を実施しようとする生産者を支援するなどし、都市住民との交流を進めていきます。
- 観光施設へ通ずる路線で、道路の狭さや運転のしづらさが課題となっている場所の道路拡幅、対向車接近警告表示灯の設置及び蓋なし側溝の蓋掛け等を、県に対し継続的に要望していきます。
- 豊かな自然を活用した家族連れで賑わう親しまれる公園整備に向け、基本構想を策定していきます。
- 遊休校舎について、民間による産業的施設、地域の集いの場の施設など、新たな地域活性化の拠点となるよう、周辺環境のメリットもいかながら、利活用法の検討を進めていきます。

豊かさを実感できるふるさとづくり

- 山間部における火事や水害などへ迅速に対応するため、確実な連絡手段であるデジタル系のトランシーバーを消防車両に配備し、安心して生活できるよう支援していきます。
- 過去に整備された身近な公園や憩いの場などについて、地域住民と協働しながら日頃のメンテナンスの質を向上させ、常に人が心地よく集まり、つながれる空間を維持していきます。
- 豪雨時の災害を未然に防止するため、頻繁に水路があふれる箇所の流末排水について流路工を整備していきます。
- 小規模需要に対応した新たな交通システムの導入や、共助による交通の仕組みづくりなど先進例や先端技術を研究しながら、大信地域に最適な移動手段を確保していきます。
- 積雪が多い特徴を踏まえ、主要道路に夜間でも認識可能な降雪監視カメラを設置するなど、積雪状況の常時把握、機動的な除雪指示ができる環境を整備していきます。
- 路面凍結箇所へ融雪剤自動散布機を設置するほか、町内会が除雪機を購入する際に一部補助を行うなど、降雪による障害を排除し、暮らしやすさを高めるための取組みを進めていきます。
- 老朽化した公園を、再び気軽に遊び、憩える場にするため、繁茂した草木の撤去や遊具の更新を行っていきます。

関連する計画

- 白河市過疎地域持続的発展計画
- 大信地域振興計画

用語解説

※1 ゴルフアーケーション：ゴルフ場に宿泊してテレワークを行い、就業時間の前後や休憩時間を利用してゴルフを楽しむワーケーション^{※2}のこと。

※2 ワーケーション：「ワーク（Work）＝仕事」と「バケーション（Vacation）＝休暇」を組み合わせた造語で、観光地やリゾート地など、普段のオフィスとは離れた場所で休暇を楽しみながら働くスタイルのこと。

東庁舎

めざすまちの姿

地域資源をいかした、東地域内外の「交流」が盛んなまちにします。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

全国的に人口減少や少子高齢化が進んでおり、本市においては急速に人口減少が進んだことにより、表郷・大信地域が過疎地域の指定を受けました。東地域は指定こそ受けませんでしたが、今後、同じ状況になることは必至と考えられます。

このことから、東地域では、過疎にならないような策を講じていく必要があります。東地域は、きつねうち温泉や文化センター、キャンプ場、様々なスポーツ施設を集約している東風の台運動公園をはじめ、歴史や文化、自然など豊かな地域資源を有しており、農業や商工業も盛んです。

今後は、このような資源をいかし、東風の台運動公園エリアを中心に、「交流」を一つのキーワードとして、この地に関わる「人」や「もの」の交流を深め、内外に発信することで、一人でも多くの人に来てみたい、住んでみたい、住み続けたいと思えるようなまちづくりを進めていきたいと考えています。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- きつねうち温泉・東風の台運動公園エリアや地域産業である農業等、地域の「もの」の特色をいかし、地域外の人から来てみたいと思われる取組みが必要となります。
- 地域の「人」の交流促進による地域コミュニティの強化を図り、地域に住み続けたいと思えるよう、子どもたちや若者の地域への愛着を醸成していくことが重要となります。
- 誰もが暮らしやすい環境を整備するため、交通システムの整備を図るとともに、子どもから大人まで、安心して、いつまでも生き生きと生活できるような支援が必要となります。
- 東地域の魅力をPRするための、情報発信力を高めていくことが重要となります。

◆ 課題を解決するための取組み

暮らしの充実

- 予約型乗合タクシー等を活用した新たな交通システムを整備するなど、移動手段（交通）の充実を図っていきます。

- 空き家が増加していることから、その利活用を地域と行政とが連携して考えていきます。
- 危険箇所における早めの対応を心掛け、誰もが安全に暮らせる環境を整備します。
- 利用されていない公園等の整理を行い、環境・景観の整備に努めます。

子育て・福祉の充実

- 安心して子育てができるよう、相談・支援の場等の整備を行っていきます。
- 子どもからお年寄りまで、誰もが安心して暮らせるよう医療機関の確保に努め、地域医療サービスの充実を図っていきます。
- 高齢者が生き生きと健康に暮らせるよう、サロンの充実や活躍できる場の確保に努めます。

コミュニティの維持・強化

- 若者にコミュニティへの参加を促し、人と人との結びつきによる、地域コミュニティの維持を図っていきます。
- デジタルにはない、「人」と「もの」との関わりや交流する機会を創出することで、若い人に戻ってきてもらえるよう子ども達の地域への誇りや愛着心を醸成します。
- 消防団員の確保をはじめ、災害時などにおける共助体制づくりなど、地域の共通認識を深め、助け合える地域づくり（コミュニティづくり）を進めます。

賑わい創出・産業振興

- きつねうち温泉を中心に、キャンプ場やスポーツ施設など、周辺エリアの充実を図るとともに、PRの仕方を工夫するなど情報発信力を高め、東地域の魅力を伝えていきます。
- 地方移住に関心のある人に対し、お試し居住での田舎暮らしや農業体験等、魅力のある機会を創出していきます。
- 賑わい創出イベント等を定期的に開催することで、地域の活性化につなげていきます。
- 誰もが分かりやすく、立ち寄りやすくするために、各所旧跡や施設等の案内を表示し、地域や商店の特色を一体的に創出することで、魅力的な街並みを整備していきます。
- 事業主の高齢化に伴い後継者不足が懸念されることから、事業後継者の育成や確保に努めていきます。

関連する
計画

● 東地域振興計画

(10)

会計課の目標

会計課

- 公金の適正な出納を行うとともに、安全で確実な管理・運用を行い、行政に対する市民の安心感と信頼感を高めます。

会計課

めざすまちの姿

公金の適正な出納を行うとともに、
安全で確実な管理・運用を行い、
行政に対する市民の安心感と信頼感を高めます。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

関係法令を遵守し、公金を適正に執行するという認識を、会計事務にあたる職員一人ひとりが自覚し続け、各業務にあたることで、市民との信頼関係の醸成（形成）につながります。

伝票の電子決裁化や AI、指定納付受託者制度※等の導入により正確性を保持しつつ、全庁的な会計事務の簡素化・効率化・明確化等の見直しを進めることにより、行政に対する市民の安心感と信頼関係の維持・向上を目指します。

公金の支払い以外で直接的な市民との接点はありませんが、伝票事務の簡素化・効率化を推進することで、全庁的な事務の省力化を実現し、その効果が、各課所の事業実施や施策の充実、ひいては住民サービスのさらなる向上へ間接的に寄与するものと考えます。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 支払い遅延や誤払いは、当事者に不利益が生じるだけでなく、市民の信用を著しく低下させるものであることから、不適切な会計事務処理が未然に防げるような取組みを進める必要があります。
- 伝票の起票や決裁の遅れにより、債権者に適切な支払いができない恐れがあることから、支払遅延の防止や支払日の確認のため、支払伝票を請求書の到着後速やかに作成することが必要です。また、支払遅延により生じる債務者の資金繰りへの影響等についても、認識を深める必要があります。
- 会計事務は、紙媒体から電子媒体へ移行する過渡期を迎えていることから、新たな環境での事務処理をこれまで以上に円滑に行うためには、各課所と会計課の支払いに対する共通認識や相互理解をさらに進める必要があります。
- 市民からの行政への不安・不満・要望等について、的確に応えながら信頼関係を構築していくためには、発議・起案から会計処理・支払い完結までのすべての会計事務について熟知し、誰もが納得できる行き届いた説明ができるように努めていく姿勢が必要です。



◆ 課題を解決するための取組み

伝票起票の手引きの改正

- 電子決裁の導入を機に、伝票起票時における添付資料等の簡素化を行い、伝票事務の効率化を図ります。
- 伝票起票職員や決裁にあたる職員に会計事務の重要性を認識してもらうため、初心者にも理解しやすい、詳細でより丁寧な「伝票の手引き（マニュアル）」を作成し、各課所に周知するとともに伝票起票者を対象とした説明会を適時実施します。

支払内容に即した説明資料の作成と指導

- 適正な伝票作成のため、起票時の提出書類についての指導、助言を的確に行います。

各課所への有効な注意喚起

- 起票方法や支払日の設定等について、庁内電子メールや掲示板を活用し、各課所への注意喚起を行います。

公会計システムのカスタマイズ

- 請求書等の自動読み取りによる起票システムの開発が進むデジタル最新技術についての情報収集を図り、公会計システムの更新時期の到来に向けて速やかに対応できるよう備えます。

公金の収納に係る口座振替データの伝送化

- 主に DVD 媒体により金融機関とのデータ授受を行っていますが、情報伝達の安全性や確実性、迅速性の向上を目指し口座振替データの伝送化を進めます。

用語解説

※ 指定納付受託者制度：クレジットカードやスマートフォンアプリ等のキャッシュレス決済により歳入を納入する仕組みのこと。

(11)

各事務局の目標

議会事務局

- 白河市議会基本条例の基本理念達成のため、議会活動が十分に発揮されるよう事務を推進します。

選挙管理委員会事務局

- 選挙が公正に行われるよう、法令に基づいた適正な管理執行を行います。

監査委員事務局

- 市の行財政が公正で効率的に運営されているかどうかをチェックし、市民福祉の増進を目指します。

農業委員会事務局

- 農業委員会の業務拡大に伴う組織体制の強化を目指します。

議会事務局

めざすまちの姿

白河市議会基本条例の基本理念達成のため、議会活動が十分に発揮されるよう事務を推進します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

地方分権の進展に伴い、地方自治体を取り巻く環境は大きく変化し、二元代表制の一翼を担う存在として、地方議会の果たすべき役割と責務がますます増大しています。

このことから、平成27年6月に制定した「白河市議会基本条例」の基本理念に基づき、公平かつ公正で開かれた議会の実現はもとより、議会の権能を十分に発揮できるよう、議会事務局の機能の充実・強化に努めていきます。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 多様な民意を反映しつつ、議会が議決・監視・立法・政策提言機関としての機能を十分に発揮できるよう、さらに、議会の調査・法務機能の強化など、議会運営へのサポート体制を充実させていく必要があります。
- より多くの市民に議会への関心を持ってもらうために、情報伝達手段を十分に活用し、開かれた議会を目指していく必要があります。
- 近年、デジタル技術や情報通信技術が目覚ましい発展を遂げており、議会においても、ICTの導入などによる効率的で迅速な議会運営をする必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

議会機能の強化

- さらなる、調査・法務機能の充実を図りつつ、円滑かつ適正な議会運営や議員活動を補佐するなど、適切な支援を行っていきます。
- 執行機関との的確な調整を行うとともに、本会議をはじめ、各委員会の運営など、議会運営が効率的・効果的に行われるよう支援していきます。
- 社会情勢の変革など、様々な状況に対応できる議会運営へのサポート体制を図るため、各種職員研修会や先進地視察研修を通して、職員的能力向上と組織力の強化に努めていきます。

市民への情報発信の充実

- 市のホームページや本会議のインターネット中継など、市民の議会への理解度や関心度を高めるため、議会情報を積極的かつ正確に発信を行っていきます。
- 議会だよりについて、市民により分かりやすく、読みやすく、親しみのある紙面づくりのためのサポートに努めます。

効率的な議会運営

- 議会の意見を踏まえながら、ICTの導入について検討していきます。

政務活動費の公表

- 政務活動費のより適正な運用の支援を図るとともに、市民に対して使途の透明性を確保するため、引き続き、ホームページなどによる公開に努めていきます。



議場



- 白河市議会基本条例



選挙管理委員会事務局

めざすまちの姿

選挙が公正に行われるよう、
法令に基づいた適正な管理執行を行います。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

選挙は、有権者が政治に参加する最も重要かつ基本的な機会であり、積極的な投票への参加は民主政治の健全な発展のためには欠かせないものです。

そのためには、有権者の意思を正しく政治に反映させる必要があり、公職選挙法をはじめとする法令に基づいた選挙事務の管理執行を適正、円滑に行うことで公正な選挙を執行します。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 国政選挙や地方選挙等、多種多様な選挙に対応するためには、職員が執る選挙事務内容も大同小異となるため、公職選挙法の正しい理解が必要です。また、経験に基づく実務的なスキルも重要になることから、状況に応じた柔軟な対応ができる人材を育成する必要があります。

◆ 課題を解決するための取組み

研修会・事務研究会等への参加

- 全国市区選挙管理委員会連合会や民間団体が主催する法令研修会や実務研修会、セミナー等に積極的に参加するとともに、職場での勉強会を開催し、実務的な知識・ノウハウを共有することで選挙事務のスキルアップを図ります。



開票事務



監査委員事務局

めざすまちの姿

市の行財政が公正で効率的に
運営されているかどうかをチェックし、
市民福祉の増進を目指します。

◆めざすまちの姿を設定した背景と想い

人口減少社会の到来により、地方自治体には、これまで以上に健全で適正な市政運営の執行が求められています。

市が実施する財務及び多様な事務事業について、「第三者」という独立した立場の視点で公正に検証・評価し、市長及び関係機関に報告するとともに、市のホームページ等で公表することにより、市政運営に対する市民の信頼を高め、市民福祉の増進を図ります。

◆めざすまちの姿を達成するための課題

- 市が行っている数多くの事務事業等に対して、様々な観点から監査、検査及び審査を実施する必要があります。
- 監査等を実施するうえで、一定水準の質を確保する必要があります。
- すべての課所に対する監査等について、公正性を確保しながら、計画的に実施する必要があります。
- 白河市 DX（デジタルトランスフォーメーション）推進方針に基づくデジタル化など、新たな技術革新に対応した監査等を実施する必要があります。

◆課題を解決するための取り組み

多面的な監査等の実施

- 全課所が実施している事務事業を対象に、年3回の「定期監査」を実施します。
- 現金の出納状況について、会計管理者、公営企業管理者から提出された例月出納検査調書に基づき、現金及び預金の月末残高が金融機関の証明と符合し正確であるか、また、計数は利害帳簿と符合し正確であるか等に着眼し、「例月出納検査」を実施します。
- 市からの審査依頼により、毎会計年度、一般会計、特別会計及び公営企業会計について、決算書及び関係書類を確認する「決算審査」を実施します。



- その他「財政援助団体等に関する監査」等のほか、状況に応じて、行政事務全般に渡る「行政監査」の実施についても検討します。

監査等の質の保持

- 監査等を実施するうえでの着眼点として、常に以下の5点に留意することにより、監査等の質の確保に努めます。
 - 合規性（法令や条例等に従って適正に行っているか）
 - 正確性（数字、金額、文言等が正確に示されているか）
 - 経済性（より少ない費用で実施できないか）
 - 効率性（業務プロセスの簡略化や改善により、効率的に処理できる余地はないか）
 - 有効性（実施結果が目的を達成しているか）
- 事務局職員の知識を高めるため、常に情報収集に取り組むとともに、必要に応じて各種研修を受講するなど、専門性の向上に努めます。

公平性の確保

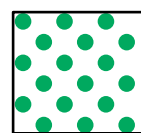
- 特に定期監査において、対象が特定の課所に偏らないよう、監査実施計画に基づき、計画的に実施するとともに、事業費に関わらず、なるべく各課1件以上が対象となるよう事業の選定を行います。
- 監査の講評及び留意点について、過去の監査結果との矛盾等が生じないように、着眼点を整理するとともに、過去の結果等を踏まえた検討を行います。

時代の変化への対応

- 令和5年度からの電子決裁施行など、新たな技術革新の進展に伴う事務事業の変化に対し、効率的・効果的な監査等の実施方法について、関係各課と連携、協議して対応します。



●監査実施計画



農業委員会事務局

めざすまちの姿

農業委員会の業務拡大に伴う
組織体制の強化を目指します。

◆ めざすまちの姿を設定した背景と想い

農業委員会が求められている業務が年々拡大している中、特に求められている農地利用最適化業務を効果的に行えるよう各種制度を活用し委員会の体制強化等を講じていきます。

◆ めざすまちの姿を達成するための課題

- 農業委員会は、農地関係法に基づく各種審査やそのための現地調査のほか、改正農業委員会法により農地利用の最適化に関する業務が農業委員会の必須業務として位置づけられたことに加え、法定化された地域計画（人・農地プラン）における目標地図の作成、同プラン実行支援、農地法に基づく農地の利用状況の全筆調査や農業者への意向調査など、近年、その業務が過重となっている。

◆ 課題を解決するための取組み

研修会・事務研究会等への参加

- 関係団体が主催する研修会や実務研修会等に積極的に参加するとともに、実務的な知識・ノウハウを習得しスキルアップを図ります。



関山と農地





各部横断的に取り組む事項

この「各部横断的に取り組む事項」は、喫緊に取り組むべき重点的課題であるとともに、将来を見据え、中長期的に対応していく課題です。

各部がそれぞれの施策に取り組むだけでなく、複数の部が方向性を共有し、横断的に取り組むことで、施策の効果や効率性を高めていきます。

テーマ1 少子化対策

- ① 結婚支援の充実
- ② 妊娠・出産・子育て支援の充実
- ③ 働きやすい環境の整備

テーマ2 脱炭素社会への転換

- ① 資源循環型社会の推進
- ② 省エネルギー化の推進
- ③ 自然環境を守り、いかす環境対策の推進

テーマ3 移住・定住の推進

- ① 白河の魅力向上と発信の強化
- ② 多様な働き方と交流の推進
- ③ ジェンダーギャップ（社会的・文化的につくられた男女格差）の解消

テーマ4 デジタル化への対応

- ① デジタルでつながる市役所の推進
- ② デジタル基盤の整備と人材育成

テーマ5 健康寿命の延伸

- ① 医療体制の強化・充実
- ② 健康の保持・増進

テーマ 1

少子化対策

本市の人口は、平成12年（2000）の66,048人をピークに減少に転じており、今後は、高齢化も急速に進むことが予測されています。人口減少は、地域経済の縮小や地域活力の低下を招くなど、市民生活に様々な面で影響を及ぼします。

この少子化に歯止めをかけるため、国・県と一体となって結婚や妊娠・出産から子育てまで切れ目ない支援を行うとともに、地域で子育てを支える環境づくりが必要です。

1 結婚支援の充実

結婚生活や子育てを支える収入を安定的に得ることができるよう、地域企業の支援に加え、企業誘致を進めることで地域産業の底上げを図ります。

また、しらかわ定住自立圏の構成町村や関係機関等と連携し、出逢い機会の創出や結婚に関する相談体制の強化などを進めます。

【市民生活部、産業部】

2 妊娠・出産・子育て支援の充実

身近に相談できる人がいない妊産婦や子育て中の親が孤独や不安を抱くことがないよう、気軽に相談できる体制を整えるとともに、出産・子育て関連情報の発信や子育てに係る経済的負担の軽減などに取り組みます。

また、幼稚園・保育園・学校以外にも、子どもたちが安心して過ごせる場を確保するとともに、企業を含めた地域が積極的に子育てに関わる雰囲気醸成するなど、社会全体で子育てをサポートする環境整備に取り組みます。

【市長公室、保健福祉部、産業部、建設部、教育委員会】

3 働きやすい環境の整備

子育て世帯が安心して「仕事」と「子育て」を両立することができるよう、幼稚園や保育園、放課後児童クラブの充実を図ります。

また、性別に関係なく育児や子育てに関わることができるよう、企業の理解と協力を得ながら、短時間勤務や在宅勤務など柔軟で多様な働き方を普及させるとともに、育児休業等を取得しやすい環境づくりを進めていきます。

【市長公室、保健福祉部、産業部、教育委員会】

テーマ 2

脱炭素社会への転換

近年、世界各地で、熱波や大雨、干ばつなど極端な気象現象が多発しています。

この温暖化を背景とする気候変動は、生態系に影響を及ぼすとともに、熱中症リスクの上昇など、私たちの生活にも大きく関わることから、地球温暖化対策として、温室効果ガスの排出量の抑制や吸収量の維持・増加を図っていく必要があります。

1 資源循環型社会の推進

ごみの発生抑制（リデュース）と再使用（リユース）、再資源化（リサイクル）の、いわゆる3Rを推進するため、市民や事業者への普及啓発活動を推進します。

また、大量生産・大量消費・大量廃棄という社会経済活動を見直し、あらゆる物を資源として循環する社会システムの実現に向けた環境整備を進めます。

【市民生活部、産業部】

2 省エネルギー化の推進

本市で暮らし活動する人々が、積極的に環境負荷の少ないライフスタイルや社会経済活動を選択していけるよう、情報発信や啓発活動に取り組みます。

また、エネルギーの消費と温室効果ガスの排出が抑制された低炭素社会を実現するため、公共施設はもとより、家庭や企業についても、省エネルギー化や再生可能エネルギーの導入を推進します。

【総務部、市民生活部、産業部】

3 自然環境を守り、いかす環境対策の推進

里山の自然環境を次世代へと引き継ぎ、「自然と人との共生」を実現するため、緑地や水辺の確保や耕作放棄地の増加を最小限に抑える取組みを進めるとともに、動植物の生息・生育域である森林や里山の維持・向上に努めます。

また、市民が自然と触れ合い、その大切さを実感できる機会を提供するとともに、市街地における緑や水辺を守り、暮らしの中で自然の豊かさを実感できる環境を維持していきます。

【市民生活部、産業部、建設部、水道部】

テーマ 3

移住・定住の推進

新型コロナウイルスの感染拡大を背景に、疫病や災害など、大都市が抱えるリスクが顕在化するとともに、情報通信技術の発達により「転職なき移住」が可能となったことから、都市部で暮らす人たちの間で、地方移住への関心が高まっています。

この「地方分散」という社会的潮流を的確に捉え、移住・定住を促進するとともに、二地域居住や関係人口など本市に関わる人材を増やしていきます。

1 白河の魅力向上と発信の強化

産業や医療、子育て、教育、文化芸術、スポーツなどの施策をバランスよく講じながら、快適な住環境を整備し、都市としての魅力を高めるとともに、首都圏へのアクセスや都市と農村のバランスの良さ、穏やかな気候、歴史など、本市の魅力と暮らしやすさを効果的・効率的に発信していきます。

また、家庭でもない、職場でもない「サードプレイス」など、地域の中で気軽につながり、安心して支え合うことのできるコミュニティづくりを進めていきます。

【市長公室、保健福祉部、産業部、建設部、教育委員会】

2 多様な働き方と交流の推進

サテライトオフィスやコワーキングスペースの整備・活用を推進するとともに、「時間」や「場所」ととらわれることなく、個々の状況やライフスタイルに応じて働き方を選択できるよう、企業の理解を深めていきます。

また、人口が減少する中、地域の担い手を確保していくため、郷土に対する愛着や誇りを醸成するとともに、市内外・国内外の多様な人・文化・地域との交流を通じて、本市と関わる人材、関わり続ける人材（白河のファン）を増やしていきます。

【市長公室、市民生活部、産業部、建設部、教育委員会】

3 ジェンダーギャップ（社会的・文化的につくられた男女格差）の解消

進学や就職を機に、都市部へ転出した若者が地方に戻らない要因として、性別等による無意識の差別や偏見（アンコンシャスバイアス）が指摘されていることから、雇用や所得はもとより、子育てや介護、地域活動などあらゆる場面の性別格差を解消するため、家庭や企業、地域、学校の理解を深めていくとともに、意思決定過程への女性の参画や女性登用などを促進し、女性が感じる閉塞感や生きづらさを取り除いていきます。

【市長公室、市民生活部、保健福祉部、産業部、教育委員会】

テーマ 4

デジタル化への対応

社会において、情報通信技術の発達や通信ネットワークの拡大などにより、モノやサービスがネットワークでつながり、生活の利便性が向上しています。

行政においても、産業、教育、福祉など様々な分野でDXを推進し、急速に変化するデジタル社会に対応しながら、市民の質の高い暮らしを実現させていく必要があります。

1 デジタルでつながる市役所の推進

市民サービス向上のため、行政手続きのオンライン化を進めるとともに、使用料や手数料のキャッシュレス決済やオンライン相談の導入、さらにはタブレットやスマホアプリを活用した「書かない、待たない窓口」の整備など、市民がいつでも、どこからでもつながるサービスを提供していきます。

【市長公室、総務部、市民生活部、保健福祉部、産業部、建設部、水道部、教育委員会】

2 デジタル基盤の整備と人材育成

各種手続きの電子化を推進するため、マイナンバーカードの普及促進を図るとともに、デジタル社会の実現に向けて、デジタルデバイドの解消に努めます。

また、行政の効率化・透明化を図り、官民協働による地域経済の活性化や課題解決を図るため、行政データのオープン化を進めるとともに、通信ネットワーク環境を整備し、デジタル技術を活用できる人材を育成します。

【市長公室、総務部、市民生活部、保健福祉部、産業部、建設部、水道部、教育委員会】

テーマ
5

健康寿命の延伸

生活環境の改善や医学の進歩等により、平均寿命は延びていますが、認知症や寝たきりとなる人も増えているため、医療や介護の負担増加が大きな社会問題となっています。

このことから、医療体制の強化・充実を図るとともに、健康寿命（健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間）の延伸に取り組むことが重要です。

1 医療体制の強化・充実

コロナ禍において、地域医療の脆弱性が露呈し、改めてその重要性が確認されたことから、診療所の新規開業や医業継承を支援し、医師や医療従事者の確保を図るとともに、オンラインを活用した遠隔診療の導入などを推進します。

【総務部、保健福祉部】

2 健康の保持・増進

各種健康診断の受診率の向上を図り、生活習慣の改善につなげるとともに、健康ポイント事業など、日常生活の中で健康を保持・増進できる取組みを進めます。

また、地域と関わり続けることが”生きがい”づくりにもつながることから、町内会や文化・スポーツ団体など多様なコミュニティの活動を支援するとともに、道路や公園などの既存ストックを活用しながら、気軽にウォーキングや散歩、ランニングなどに取り組むことができる環境を整備します。

【市長公室、市民生活部、保健福祉部、建設部、教育委員会】

白河市行動計画 －アジェンダ 2027－

発行 令和5年（2023年）4月

白河市

連絡先 白河市 市長公室 企画政策課

〒961-8602 福島県白河市八幡小路7-1

電話：0248-22-1111（代表）

FAX：0248-27-2577

URL：<https://www.city.shirakawa.fukushima.jp/>

